

第7回リニア駅周辺整備検討会議 次第

平成28年7月20日（水）13時30分～
飯田市役所 C311～C313 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) 第6回リニア駅周辺整備検討会議の報告 [資料1]

(2) アイデア募集ヒアリングの報告 [資料2]

4 協議事項

(1) 各部会の検討報告と課題整理

1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会 [資料3]

2) 魅力発信部会 [資料4]

3) 環境・景観部会 [資料5]

4) 交流人口拡大部会（発足について報告） [資料6]

5 その他

6 閉 会

第 6 回リニア駅周辺整備検討会議の報告

日時：平成 28 年 6 月 6 日 13:30～

場所：飯田市役所 C311～313 号会議室

1 会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 報告事項
 - (1) 第 5 回リニア駅周辺整備検討会議の報告
 - (2) 伊那谷自治体会議の報告
 - (3) 各部会の報告
 - 1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会
 - 2) 魅力発信部会
 - 3) 環境・景観部会
5. 協議事項
 - (1) アイデア募集の結果について
 - (2) リニア駅及び駅周辺地域の整備スケジュール

2 おもな発言及び意見

4. 報告事項 (2) 伊那谷自治体会議の報告

- ・ 伊那谷自治体会議と検討会議が、どう連動していくか非常に大事になってくる。自治体会議では、二次交通や広域観光など具体的な内容を議論していくので、検討会議でもそれを受けて、連動してやっていきたい。

4. 報告事項 (3) 各部会の報告 1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会

- ・ 駅北側交通広場に入るには、大きく曲線を描くような経路にならざるを得ないという結論でよろしいか。
⇒座光寺上郷道路から北側道路へ繋がる道筋について、技術的に可能か検討中ではあるが、昨年度までの検討結果はおっしゃる通り。
- ・ リニア本線の両側にメンテ用としての道路はつくのか。またその幅は。
⇒片側約 4m、高架構造物約 40m の外側に緩衝帯として設置する。メンテ作業等に支障がなければ歩道と一体的に利用可能。

4. 報告事項 (3) 各部会の報告 2) 魅力発信部会

- ・ アイデア募集でかなり良い案が出てきていると考えており、一度整理をし直す必要がある。

5. 協議事項 (1) アイデア募集の結果について

- ・ 項目の分類については、飯田市の事務局で大きな整理をした上で各部会に回ってくるのか。部会前に確認が必要であるため、早めに配布して頂きたい。

⇒一つの案が一つの項目に当てはまるのではなく、必ず別の項目にも影響しているため、HP上に公開するので、時間はかかるが一通り確認・検討頂きたい。場合によってはCD等で配布するなど対応していきたい。

- ・ アイデア項目の「駅周辺整備区域内」と「駅周辺地域」の整理はどうなっているのか。

⇒データ整理上は項目を分けている。データを提供する際に分離することは可能である。

- ・ アイデアの数が多ければ良い訳ではなく、また全てを見る必要があるが、均等に見る必要はない。中から良いアイデアをピックアップして部会や検討会議で利用して頂く、という整理が非常に適切ではないか。
- ・ これまで構想で決めてきたものに対して、適合しないという理由で排除するのは良くない。委員の皆様には、はみ出ている部分も含めて幅広く受け止めて考えて頂きたい。

5. 協議事項（2）リニア駅及び駅周辺地域の整備スケジュール

- ・ 交流人口拡大部会はいつ頃設置されるのか。

⇒具体的にどんな拠点やまちにしていきたいか、6.5ヘクタール以外でどんな機能を担おうとするかも合わせて整理しながら、その発展として交流人口拡大部会を設置するため、準備をしている状況。

- ・ 用地補償の意向調査はいつ頃か。

⇒直接の関係者やその周辺の関係地権者について準備しており、用地事務に先立って今年度上期には一旦整理したい。

アイデア募集ヒアリングの報告

1 開催日時・場所

平成 28 年 7 月 6 日（水）16 時 00 分～18 時 15 分
飯田市役所 C311～C313 号会議室

2 実施内容

- (1) アイデア募集結果の概要説明
- (2) アイデア提案者からのヒアリング
- (3) 総評

3 ヒアリング対象者

- | | |
|----------------------|---------------------|
| (1) 南信州アルプスフォーラム | 新井 優 |
| (2) 飯田商工会議所座光寺支部 | 櫛原綱由、木下 光 |
| (3) 神稲建設株式会社 | 岡島 章、佐々木雅弘 |
| (4) 赤羽 孝之 | |
| (5) 小平 朋奈 | (飯田女子高等学校) |
| (6) 龍口 美緒 | (飯田女子高等学校) |
| (7) 豊橋技術科学大学 都市計画研究室 | 上田政道、時田諭成、友野雄介、松下建介 |
| (8) 橋爪 明鏡 | (下伊那農業高等学校) |
- (※ 1 提案 説明 10 分、質疑 10 分 (7)、(8)は事務局発表)

4 アイデア提案の主旨

- (1) 南信州アルプスフォーラム
 - ・ 駅北口と南口で機能を区分し、北口を「待たせず・悩ませず・歩かせず・濡らさせず」の「4 せず原則」を踏まえた乗換機能を集約する。
 - ・ 南口は伊那谷各地へ誘う施設が広がる「ウェルカムハウス群」や、地元住民や来訪者のつながりを生み出すような場所を設置する。
 - ・ リニア本線から出来るだけ近い位置に立体駐車場を配置し、バス・タクシーバースについては視覚的にどこにあるか、すぐ分かるように円形をデザインして配置する。
 - ・ 最初からすべて特定企業に固定するのではなく、共有のスペースやマルシェを設けて、地元の人や市民団体等も自由に参加できるよう工夫すべき。
- (2) 飯田商工会議所座光寺支部
 - ・ 駅と北側の元善光寺を結ぶ街道の修景事業による整備を行い、歴史や文化の提供やコミュニティ空間としての機能を高める必要がある。
 - ・ 自然環境を生かし、駅周辺を流れる河川等を利用したビオトープを整備する。
 - ・ 座光寺の農振地域については、リニアを機会に取り上げられることで、地元の人々がこだわって維持する意識が高まってほしい。
- (3) 神稲建設株式会社
 - ・ 「未来を見据えたコンパクトで効率的な駅」として、自動運転車の乗り入れを前提とした乗降レーンやバスターミナルを整備し、駐車場を無くすようにこだわった。
 - ・ 都市との時間距離の短縮を生かし、週末に信州を訪れて耕作を行う「週末信州人」のライフスタイルを構築する。
 - ・ 高齢になり自分で運転できない人々のために、自動運転車が必要になってくる。将来のことを見据えると、自動運転車の乗り入れを考慮する必要がある。

- (4) 赤羽 孝之
- ・ 飯田下伊那らしい豊かな自然景観を生かすことが重要である。他のリニア駅ではできない、ゆったりとした自然を体感できるような駅空間が必要である。
 - ・ 自然環境と調和した展望施設やレストランを設置すると良いのではないか。
 - ・ 故郷の風景を描いている原田泰治の絵や、地元の水引を活用してほしい。
 - ・ タレントを使ってでも飯田下伊那のことを知ってもらった方がいい。
- (5) 小平 朋奈
- ・ 地元住民の視点から、渋滞解消に向けた道路拡幅や、南アルプスが見える展望台、災害時の避難場所になるコミュニティセンターを設置する。
 - ・ 移転対象者の住みにくさや地域のつながりの分断がないよう、居住施設の整備も必要だと思う。
 - ・ 獅子舞に参加した経験から、地元で大事にしているイベントを発信体験できる施設が欲しい。お祭りの際に発表できるような場所が必要だと思う。
 - ・ 南アルプスが見える、地域のシンボルになるような高い展望台(例:スカイツリー)があれば良い。
- (6) 龍口 美緒
- ・ 「憩いの場」と「人々が集う場」を中核にしたまちづくりが必要だと思う。
 - ・ 人形劇は世界とつなぐものであり、飯田市を人形劇の聖地にしたらどうか。駅に人形劇を発表できる場所があれば、人形劇をやっている学生も集まると思う。
 - ・ 古き良き文化や、心を癒す自然の豊かさを生かすことが重要。
 - ・ みんなが集まって話をしたりイベントをしたり、憩いの場所がないので、駅周辺にそんな場所が出来たら良い。
- (7) 豊橋技術科学大学
- ・ 自転車を主要交通手段として取り入れることで環境に優しいクリーンなまちづくりを実現する。
 - ・ 自転車観光マップを作成して市内の観光地を周遊してもらい、飯田市の魅力である自然や町並みを肌で感じてもらう。
 - ・ 観光客が、焼肉を食べると合わせて、カロリー消費のために自転車を利用することが出来ると良い。
- (8) 橋爪 明鏡
- ・ 来訪者がまた訪れたいくなるよう、綺麗な駅を維持するための取り組みや、外国人向けに様々な言語で案内する等の整備が必要ではないか。
 - ・ 駅員や係員が巡回してゴミを拾ったり捨てさせないようにしたりすることで、治安を守り、明るい雰囲気根付けることが必要ではないか。
 - ・ 都市部で定年を迎えた方々に、飯田へ移住してもらい、飯田市で最期を迎えてもらうような、終活の受け入れ先として考えてもらえるように整備したらどうか。

5 総評

〈小澤会長〉

- ・ リニアという新しい変化で、若い世代が一度出てもまた地域へ戻ってくるような良い循環が生み出せば良い。今日の提案を、要所で活かして頂きたい。

〈鈴木部会長〉

- ・ アイデアに対する熱い思いを直接伺うことが出来たので、出来るだけ汲み取れるよう、部会でも技術的な面を踏まえて検討を進めていきたい。

〈上原部会長〉

- ・ 大人だけでなく若い人も意見を持っていることに感心し、非常に参考になった。議論を継続するきっかけになれば、より良いものが出来るのではないか。

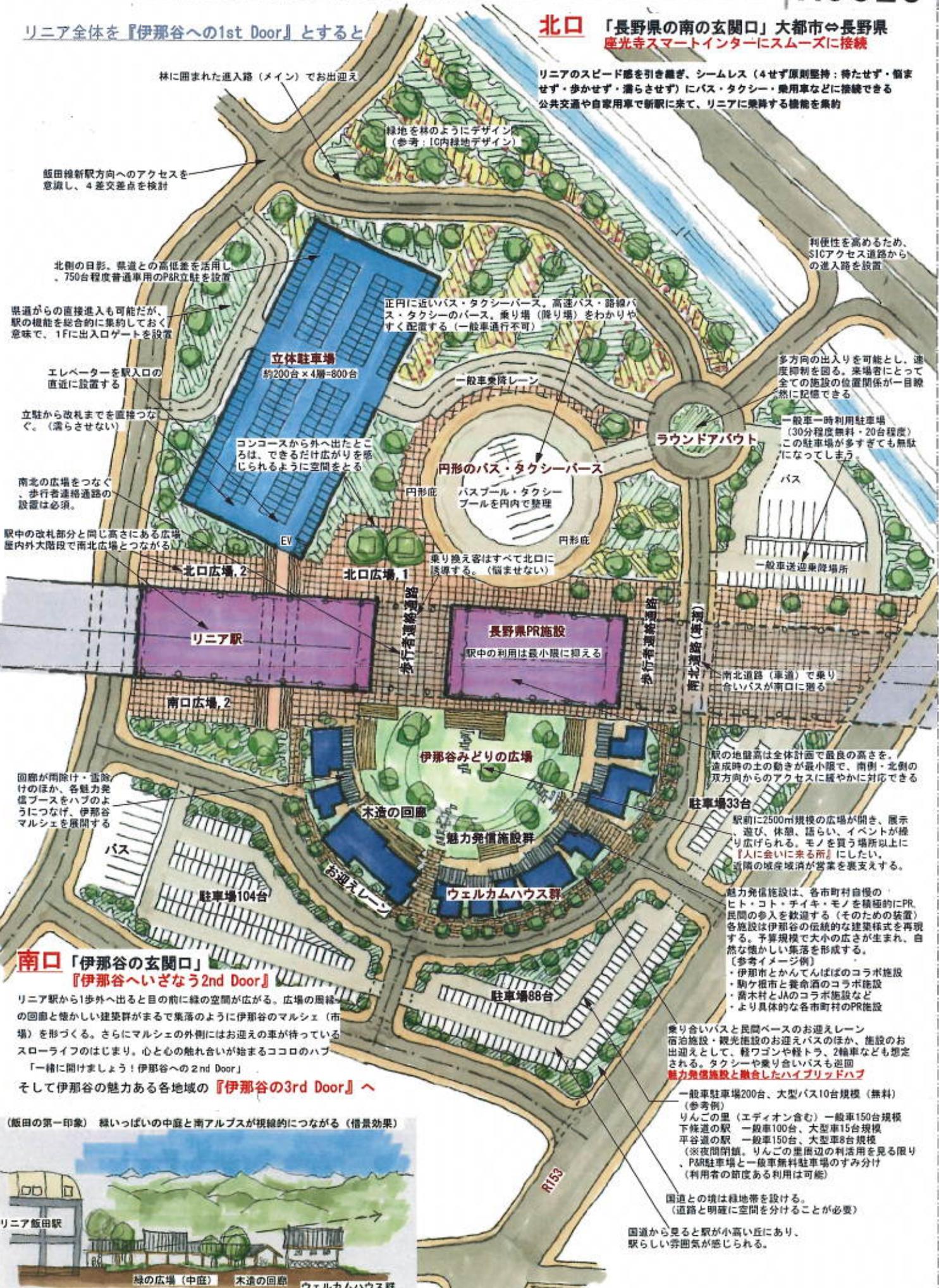
〈佐藤副会長〉

- ・ 多岐に亘るアイデアを、基本構想を修正することも含め、柔軟に取り入れて計画作りや行政に生かしたい。今後も、市民との意見交換の機会を重ねたい。

リニア全体を『伊那谷への1st Door』とする

北口 「長野県の南の玄関口」大都市⇄長野県
座光寺スマートインターにスムーズに接続

リニアのスピード感を引き継ぎ、シームレス（4せず原則堅持：待たせず・留まらず・歩かせず・濡らさず）にバス・タクシー・乗用車などに接続できる公共交通や自家用車で駅に来て、リニアに乗換する機能を集約



林に囲まれた進入路（メイン）でお出迎え

緑地を林のようにデザイン（参考：IC内緑地デザイン）

飯田線新駅方向へのアクセスを意図し、4差交差点を検討

北側の日影。景道との高低差を活用し、750台程度普通乗用のP&R立駐を設け

景道からの直接進入も可能だが、駅の機能を総合的に集約しておく意味で、1Fに出入口ゲートを設置

エレベーターを駅入口の直近に設置する

立駐から改札までを直接つなぐ。（濡らさせない）

南北の広場をつなぐ、歩行者連絡通路の設置は必須。

駅中の改札部分と同じ高さにある広場。屋内外大階段で南北広場とつながる。

立体駐車場 約200台×4層=800台

コンコースから外へ出たところは、できるだけ広がりを感じられるように空間をとる

一般車乗降レーン

円形のバス・タクシーベース

バスプール・タクシープールを円内で整理

乗り換え客はすべて北口に誘導する。（留ませない）

長野県PR施設

駅中の利用は最小限に抑える

ラウンドアバウト

利便性を高めるため、SIGアクセス道路からの進入路を設置

多方向の出入りを可能とし、速度抑制を図る。乗換者にとって全ての施設の位置関係が一目瞭然に記憶できる

一般車一時利用駐車場（30分程度無料・20台程度）この駐車場が多すぎても無駄になってしまう

南北道路（車道）で乗り合いバスが南口に到着

駅の地盤高は全体計画で最良の高さを、造成時の土の動きが最小限で、南側・北側の双方向からのアクセスに緩やかに対応できる

魅力発信施設は、各市町村自慢のヒト・コト・チキ・モノを積極的にPR、民間の参入を歓迎する（そのための装置）各施設は伊那谷の伝統的な建築様式を再現する。予算規模で大小の広さが生まれ、自然な懐かしい集落を形成する。
（参考イメージ例）
・伊那市とくまのぼのラボ施設
・駒ヶ根市と養命酒のラボ施設
・高木村とJAのラボ施設など
・より具体的な各市町村のPR施設

乗り合いバスと民間ベースのお迎えレーン
宿泊施設・観光施設のお迎えバスのほか、施設のお出迎えとして、軽ワゴンや軽トラ、2輪車なども想定される。タクシーや乗り合いバスも巡回
魅力発信施設と融合したハイブリッドハブ

一般車駐車場200台、大型バス10台規模（無料）（参考例）
りんごの里（エディオン含む）一般車150台規模
下條道の駅 一般車100台、大型車15台規模
平谷道の駅 一般車150台、大型車8台規模
（※夜間閉鎖。りんごの里周辺の利活用を見る限り、P&R駐車場と一般車無料駐車場のすみ分け（利用者の節度ある利用は可能）

国道との境は緑地帯を設ける。（道路と明確に空間を分けることが必要）

国道から見ると駅が小高い丘にあり、駅らしい雰囲気を感じられる。

南口 「伊那谷の玄関口」 『伊那谷へいざなう2nd Door』

リニア駅から1歩外へ出ると目の前に緑の空間が広がる。広場の周縁の回廊と懐かしい建築群がまるで集落のように伊那谷のマルシェ（市場）を形づくる。さらにマルシェの外側にはお迎えの車が待っているスローライフのはじまり。心と心の触れ合いが始まるココロのハブ

「一緒に開けましょう！伊那谷への2nd Door」

そして伊那谷の魅力ある各地域の『伊那谷の3rd Door』へ

（飯田の第一印象） 緑いっぱいの中庭と南アルプスが視線的につながる（借景効果）



北口

長野県の南の玄関口 大都市⇄長野県

座光寺スマートインターにスムーズに接続

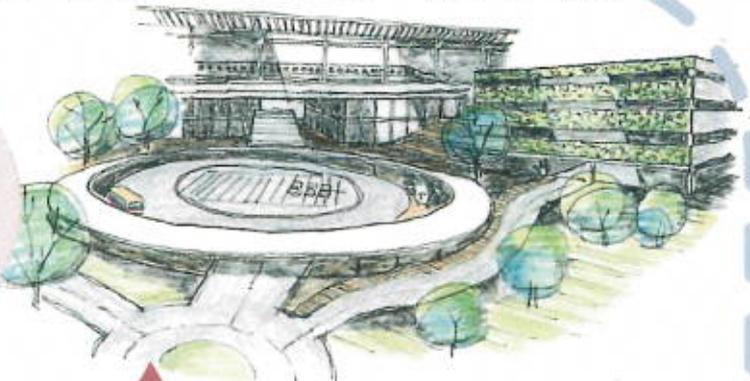
ドラえもん型(日本低炭素社会シナリオより)

【キーワード】

- ・利便性・効率性・合理性・わかりやすいスピーディ・技術志向
- ・4せす原則: 待たせず・悩ませず・歩かせず・濡らさせず

【配置すべき施設】

- 高度なトランジットハブとして
- ・バスバース(公共交通)・タクシープール・パーク&ライド駐車場(立体駐車場)
- ・カーシェアリング・レンタカー・待合所
- ※10分以内の接続を目指す。滞在させないため、上記以外の施設(交流施設など)はつくりたくないこと。
- ※キス&ライド(自家用車での最寄り駅送迎)については南口に配置する。



リニア駅

南口

伊那谷の玄関口『伊那谷各地へといざなう2nd Door』

サツキとメイ型(日本低炭素社会シナリオより)

【配置すべき施設】

「人に会いに来る場所」として

- ・魅力発信施設(ウェルカムハウス群)、駅から降り立った目の前にみどりの広場(2500㎡規模)【必須】、お迎えレーン(キス&ライド)、駅舎と魅力発信施設をつなぐ回廊、マルシェ、乗り合いバス停(北口のバスバースから発進すればよい。南口にバスバースは不要。)
- ※魅力発信施設は建物や商品に魅力があることはもちろんだが、それだけでは伊那谷の魅力が伝わらない。伊那谷の「人」がそこにいることが重要。伊那谷各地域へといざなう2ndDoorは重い厚のため、観光客や来訪者だけで開けるのは困難。2ndDoorを開けるのは「伊那谷の人」が共にいて開けられる。2nd Doorを開けることを本来の「交流」と呼びたい。人こそが伊那谷の魅力を伝えるのであり、伊那谷各地域へ足を向かわせることになる。
- ※ウェルカムハウス群としたのは、魅力発信施設をひとつに集約するような合理性をここでは求めないため。それぞれの館でそれぞれの魅力を伝える。おもてなしの心を持った「伊那谷の人」がそこに多くいるほど魅力は高まると考える。
- ※この地域の人が集まる場所とすること。地元の人が何度も通う場所が観光客にとっても魅力がある場所。観光客だけに向けた施設はこの地域では必要ない、成立しない。
- ※伊那谷らしさを駅周辺で表現するのではなく、伊那谷の魅力そのものである各地域へといざなう「2nd Door」となる施設群を整備する。

【キーワード】

- ・ゆったり・のんびり・癒し・安らぎ・スローライフ・自然志向
- ・休憩・語り・笑い声・音楽・イベント・ときめき・人情



「人と人が出会い、つながる」＝「また訪れたいくなる地域へ」

伊那谷の各地域

魅力ある各地域の『伊那谷の3rd Door』へ

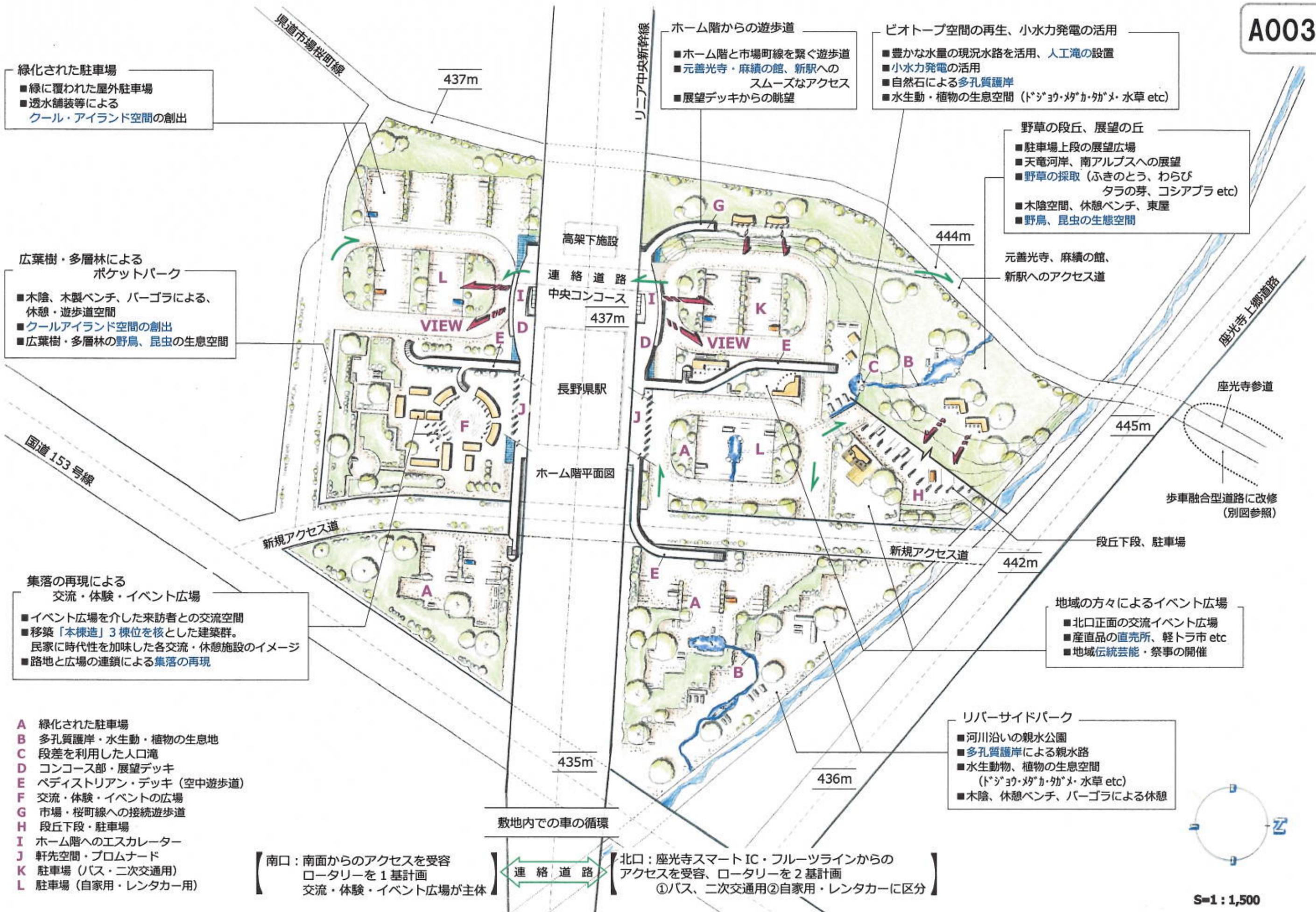
- ・メガリージョンの中で最も「風土の豊かな地域」＝「日本らしい田舎」であることを知ってもらう。(来客を迎え入れる意義はそこにある)

【キーワード】

おもてなし、暮らしに息づく知恵や技、ありのままの自然、多様性、生業、農のある暮らし、おじや経済(多様な産業・事業所数の多さ)、自主自立の気概、進取の気質

※「中央アルプスロープウェイ」、「高遠の桜」、「屋神温泉」などは、2ndDoorからすんなり入れるトップランキングの観光地であるが、それらの他にも伊那谷の語りつくせない魅力は、3rdDoorの向こう側にある。

3rd Doorを開けることができた来訪者は、伊那谷を知るとともに、ニッポンの日本を知ることになる。



緑化された駐車場

- 緑に覆われた屋外駐車場
- 透水舗装等によるクール・アイランド空間の創出

広葉樹・多層林によるポケットパーク

- 木陰、木製ベンチ、バーゴラによる、休憩・遊歩道空間
- クールアイランド空間の創出
- 広葉樹・多層林の野鳥、昆虫の生息空間

集落の再現による交流・体験・イベント広場

- イベント広場を介した来訪者との交流空間
- 移築「本棟造」3棟位を核とした建築群。民家に時代性を加味した各交流・休憩施設のイメージ
- 路地と広場の連鎖による集落の再現

- A 緑化された駐車場
- B 多孔質護岸・水生動・植物の生息地
- C 段差を利用した人口滝
- D コンコース部・展望デッキ
- E ペDESTリアン・デッキ (空中遊歩道)
- F 交流・体験・イベントの広場
- G 市場・桜町線への接続遊歩道
- H 段丘下段・駐車場
- I ホーム階へのエスカレーター
- J 軒先空間・プロムナード
- K 駐車場 (バス・二次交通用)
- L 駐車場 (自家用・レンタカー用)

【南口：南面からのアクセスを受容
ロータリーを1基計画
交流・体験・イベント広場が主体】

【北口：座光寺スマートIC・フルーツラインからのアクセスを受容、ロータリーを2基計画
①バス、二次交通用②自家用・レンタカーに区分】

ホーム階からの遊歩道

- ホーム階と市場町線を繋ぐ遊歩道
- 元善光寺・麻績の館、新駅へのスムーズなアクセス
- 展望デッキからの眺望

ピオトープ空間の再生、小水力発電の活用

- 豊かな水量の現況水路を活用、人工滝の設置
- 小水力発電の活用
- 自然石による多孔質護岸
- 水生動・植物の生息空間 (トビヨウ・メダカ・カガメ・水草 etc)

野草の段丘、展望の丘

- 駐車场上段の展望広場
- 天竜河岸、南アルプスへの展望
- 野草の採取 (ふきのとう、わらび、タラの芽、コシアブラ etc)
- 木陰空間、休憩ベンチ、東屋
- 野鳥、昆虫の生態空間

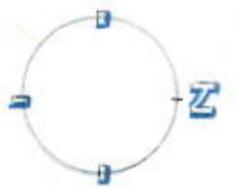
元善光寺、麻績の館、新駅へのアクセス道

地域の方々によるイベント広場

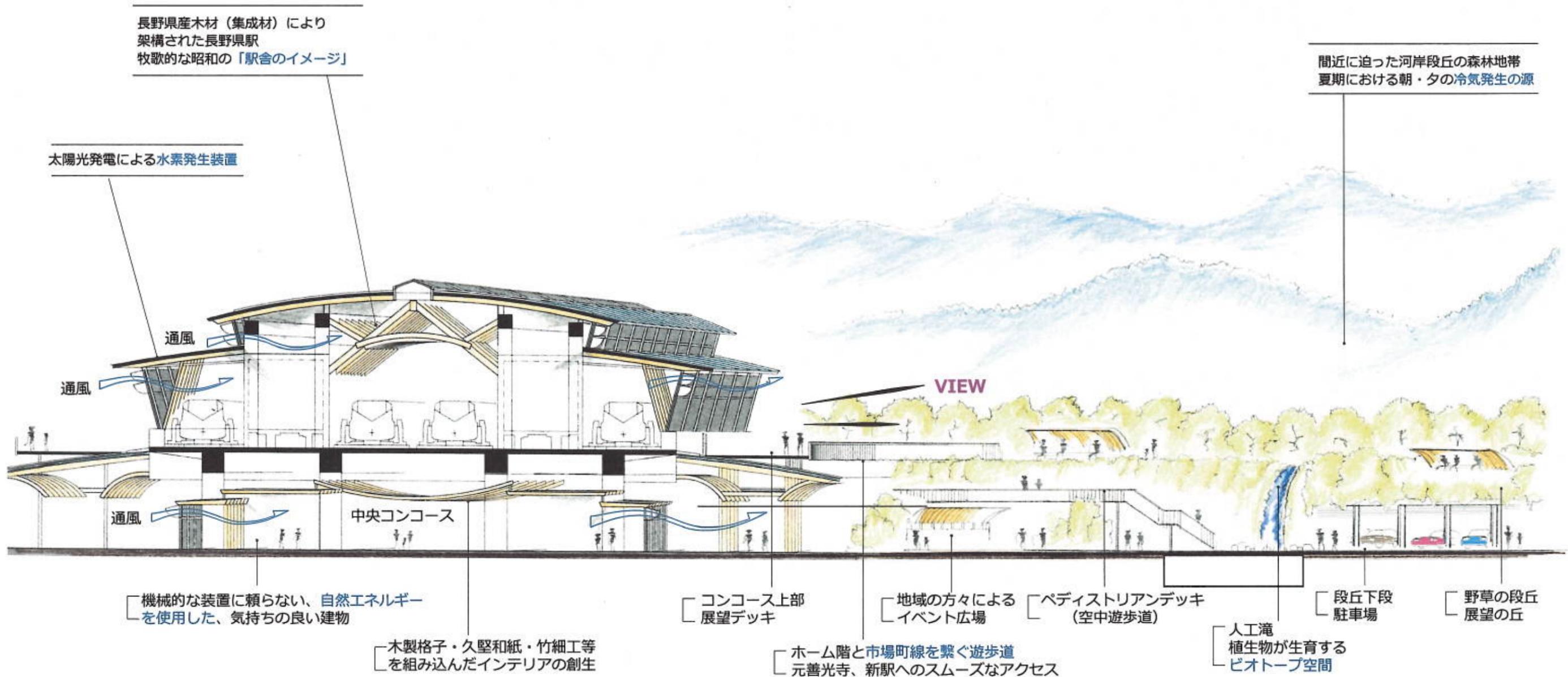
- 北口正面の交流イベント広場
- 産直品の直売所、軽トラ市 etc
- 地域伝統芸能・祭りの開催

リバーサイドパーク

- 河川沿いの親水公園
- 多孔質護岸による親水路
- 水生動物、植物の生息空間 (トビヨウ・メダカ・カガメ・水草 etc)
- 木陰、休憩ベンチ、バーゴラによる休憩



S=1:1,500

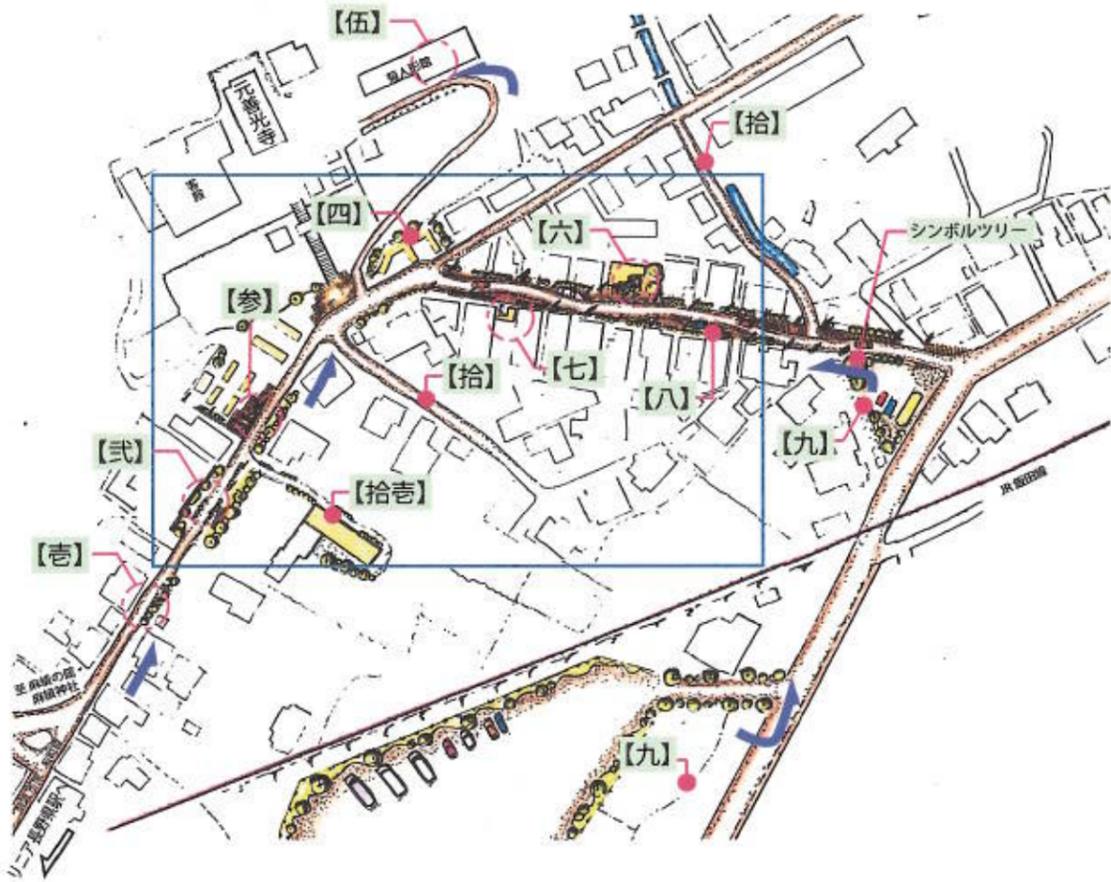


S=1:300



まちづくりの中の「みち」の役割

- 道路は、場所と場所を結ぶ単なる交通手段ではなく、歴史や文化を提供することのできる空間であり、ひとつの資源としてと捉えられる。
- 道路は、生活行動に密着した空間であり、コミュニティ空間として機能する。
- 路地は、多様なシーンが提供できる空間として機能する。(生活している者には日常性を、訪問者には非日常を提供する。)



参拝客で賑わう元善光寺



正月の参拝で混雑する市場・板町線
＜参道として開放するのが望ましい＞

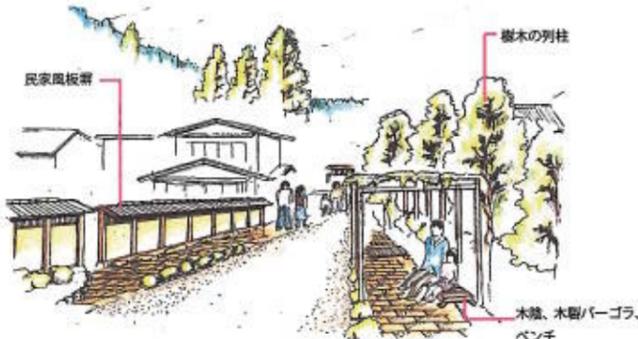


昭和の時代まで開催されていた「菊人形祭」
＜是非、再開したい＞



天竜峡で開催された「マルシェ」の賑わい
＜かつての如く来客を誘導させる＞

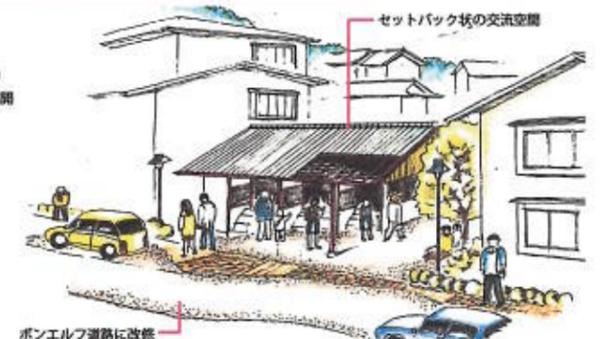
- 壹) ポケットパーク＜休憩、木陰、ストリートファニチャー＞
- 貳) ポケットパーク＜休憩、木陰、ストリートファニチャー＞
- 参) イベント広場＜如来様の再開、オープンカフェ＞
- 肆) イベント広場＜如来様の再開＞
- 伍) 菊人形祭＜菊人形祭りの再開＞
- 六) コミュニティ館＜セットバック状の交流空間＞
- 七) コミュニティ館＜セットバック状の交流空間＞
- 八) ボンネルフ＜歩道を設けた歩車融合型道路＞
- 九) 参拝者用駐車場＜シンボルツリー、緑地帯＞
- 拾) 路地空間の活用
- 拾壹) 苗倉の再生＜養蚕史料展示・休憩・くつろぎ空間＞



貳) ポケットパーク・イメージ図



参) イベント広場・イメージ図



七) コミュニティ館・イメージ図

リニア長野県駅とのアクセス・イメージ図

【麻績神社・麻績の館】

・天正年間（1573年頃）より前の開創といわれ、1873年（明治6）以降、麻績神社と呼ばれる。明治後期から始まったとされる三兄弟の獅子曳きが特徴。
また1873年（明治6年）に建築されたとされる麻績学校校舎は、巨大な木造建築物であり、歌舞伎舞台を備えた珍しい複合建築である。
春先の舞台桜開花時の風景は絶景であり、農村歌舞伎の再開も含め、都心部居住者の来訪スポットに成りうる神社である。

【本棟造・養蚕民家に残る農村原風景の継承】

・飯田市座光寺地区（旧座光寺村）は、他地域で次々と農地の転用・開発が進む中、農業振興地を維持してきた。その結果、江戸中期から明治期に建築された民家が、多数住み継がれている。江戸中期からの稲作主体時の本棟造が12棟、明治期以降の養蚕盛業時の養蚕民家が47棟残存しているが、これは農業の発展史を伝える貴重な産業遺産である。
このような民家が点在する農村原風景は南信州独自の資産であり、地域文化研究者のみならず都心部居住者の癒しの空間として、来訪するスポットになりうる素養のある地域である。



【農村原風景の残る座光寺地区】
平成19年度に景観条例は施工済みであるが、屋根形状・使用材料・色彩等の景観に関する基準を強化する必要がある。

1. 駅前開発のコンセプト

駅前開発のコンセプトは「コンパクトにまとめる」「人や車両の動きが効率的な駅」にすることである。理由は、

- (1) 本来の駅の目的は効率的な移動であり、駅の中で混雑・滞留しないように、時間で目的地に到着できることである。
- (2) 混雑、滞留してしまうと駅としての魅力を失い、ビジネスや観光の機会を失うことになる。
- (3) 駅前開発は域内周辺の小売り需要、観光需要を奪ってしまうことになる。駅前開発は最小限にとどめ、周辺への移動をスムーズに促す行うことに注力する。

駅前の「点」で整備するのではなく、周辺道路の「線の動き」を効率化し、地域全体の「面」を発展させる。駅はコンパクトにまとめ、接続道路整備と周辺の整備をする。

2. 利用可能な革新的未来技術

リニア中央新幹線が開業する2027年には情報通信技術・制御技術がさらに発展する。それらの技術を利用し、今までには無かった革新的な駅の構築が可能である。

- (1) 自動運転車
運転者がコンピュータによる完全自動運転(レベル4)の登場。

段階別の自動運転

レベル	内容	現行法で可能
安全運転支援 1	加速、操縦、ブレーキのいずれかをシステムが行う	○
準自動走行 2	加速、操縦、ブレーキの複数を行くが、必要に応じてドライバーが操作	○
完全自動走行 3	加速、操縦、ブレーキのすべてをシステムが行う	○
完全自動走行 4	ドライバーが全く関与しない	○

駅乗降レーンで必要な自動運転レベル

東京オリンピックの2020年には都内で自動運転のバス・タクシーの導入が検討されている。2027年には市場に浸透し2030年以降は急激に普及が進むと考えられている。

駅は無人配車が可能となれば、以下のことが期待できる。

- ① 駐車場を駅付近に配置する必要がなくなる
- ② 降車後は車は自動的に駐車場に移動駐車することが出来る。

- (2) 顔認証などの高度認証・通信技術

顔認証が高度化し、駅内のカメラによって人物を特定し、適切な個人レベルの誘導が可能となる。スマートフォン等の近距離無線通信技術も同様の誘導が可能になる。

- (3) 人工知能(AI)の高度化

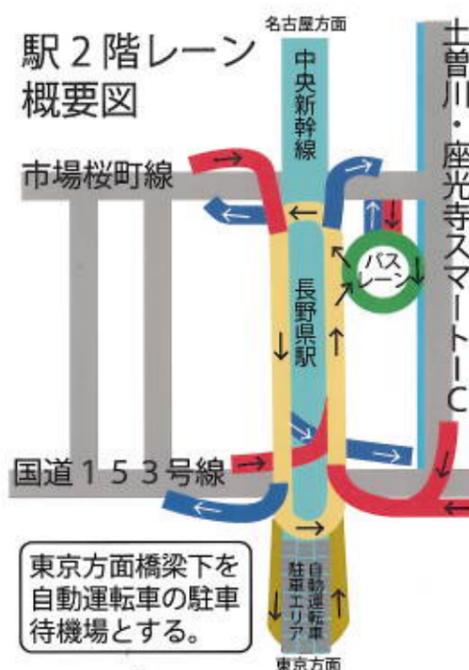
2012年以降「ディープラーニング」と言われる人工知能が進化、認知能力の向上により多くの言語での対人コミュニケーションが可能となる。



3. 自動運転車の乗り入れを前提とした乗降レーンおよび駐車場整備

自動運転車により以下の運用が可能となる。右図赤色が乗車レーン、青色が降車レーンとなる、乗降口は周回し、東京方面の高架橋下に駐車場とする。

- ① 利用者の駅入場後、無人になった自動運転車は高架下の自動運転車駐車エリアに誘導される。
- ② 駅退出時は、利用者が駅到着時に、自動運転車は高架下の自動運転車駐車エリア等より乗降レーンに誘導。利用者を乗せ公道に降りる。
- ③ 乗車レーン(赤色)に自動運転車を滞留させることで公道の渋滞を回避する。
- ④ 降車レーン(青色)に目的の道路に誘導することで、無駄な動線を回避し信号に遭うことなく公道に合流する。
- ⑤ 目的地をあらかじめ登録することで最適な乗降レーンに誘導する。



4. 駅および駅の周辺計画について

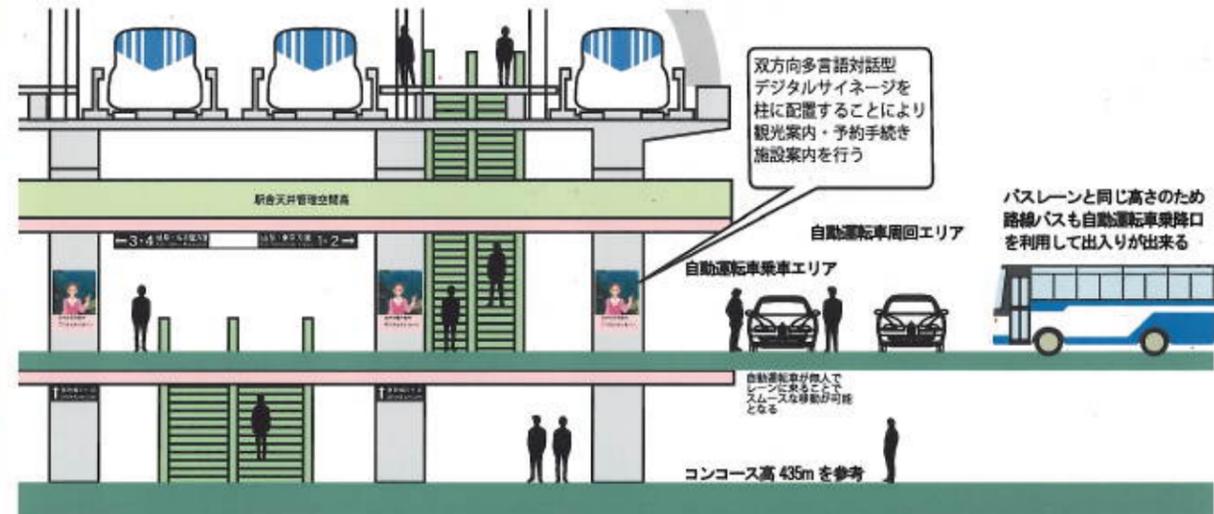
1 ビジネスホテル	①主要層は単身・ビジネス向け(高付加価値型) ②観光用は周辺の旅館等民間宿泊施設へ誘導(駅内観光案内にて紹介可能)
2 ヘリポート	①南アルプス登山口と言った長距離の観光用途 ②防災・緊急搬送(新幹線患者搬送) ③乗用を含むUAV(無人機)の離発着場として使用
3 バスレーン	①高さは2階乗降レーンと同じとし、乗降レーンからの乗り入れが可能。 ②1階部分は駐車場、地盤が高く天井の低い箇所は防災倉庫。 ③天井はガラスおよびソーラーパネルを使用する。中央は横断の光庭。 ④バス乗り場は森の中をイメージし、柱を樹木、ソーラーパネルが太陽光を和らげる
4 自動運転車乗降レーン	2階部分がタクシーおよび自動運転車の乗降レーンである。公道に降りずに周回できる。降車後無人になった自動運転車は高架下の駐車場に移動する。
5 菱田春草の森	菱田春草の作品をイメージした庭園
6 駅乗車レーン(in)	駅2階の乗降レーンに乗車口
7 高架下駐車場	リニア利用客を降車後、自動運転車は高架下の駐車場に自動誘導される。
8 駅降車レーン(out)	駅2階の乗降レーンに降車口、国道などに降りる
9 駅前広場	駅利用者の憩いの場、飯田の一本桜を中央に配置
10 一本桜	シンボルツリー
11 緑地駐車場	①緑化アロカを使用し一般車用駐車場 ②一般のAS舗装にくらべて温度上昇が少なく環境に配慮 自動運転車が導入されると、それほど重要ではなくなるが、駐車場としての大きさは減少する ③駐車場としての機能が不要となった場合、そのまま公園化可能 ④非常時における広場として利用可能 ⑤地下に貯水池(飲用) 排水池(豪雨対策一部は非常時の飲用外水として利用可能) 汚水坑(非常時浄化設置可能)を有する
12 親水広場	土管川を2層化。下層はボックスカルバートで通水。上層:観賞可能な水深の強い物 下層:通常~豪雨時の排水 土地利用計画における重点協議区域は、民間活力を利用し、景観を周辺住民に配慮したマンション・オフィスエリアとする
13 マンション・オフィスエリア	

※駅1階は、駅機能施設の他に、コンビニエンスストア、物販店(お土産・手荷物程度)、有人観光案内を配置する



正面イメージ図

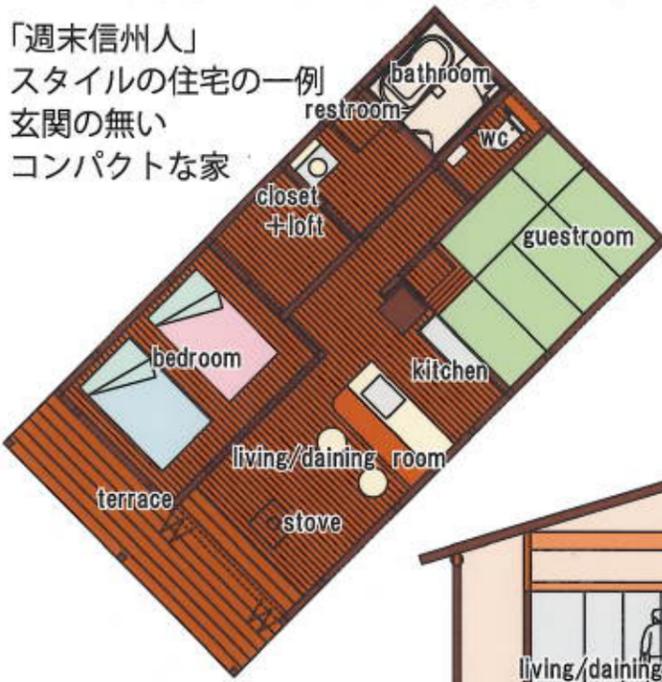
リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア募集 (神稲建設株式会社)



駅2階イメージ図

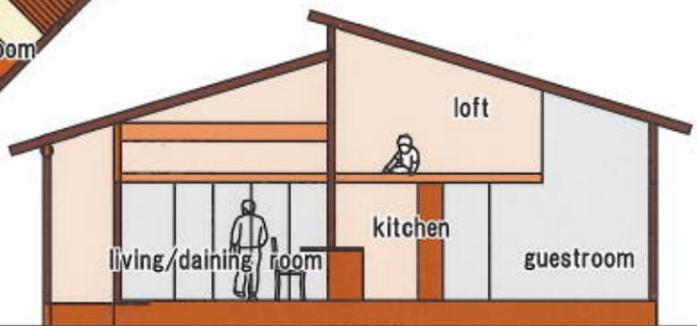
5. 大都市部へ通勤可能となった「週末信州人」のライフスタイル提案

「週末信州人」スタイルの住宅の一例
玄関の無いコンパクトな家



長野県中間駅は名古屋まで20分、東京まで40分通勤圏となる。様々な通勤スタイルが登場する。また週末は地方で土と過ごしたいというライフスタイルも現れる。それらの需要を受け入れることで南信州の人口増と賑わいを獲得する。若年層への支援を充実し、定住化を促進する。

- (1) 週末信州人のターゲット層。
- ①セカンドライフ層、段階的に生活が信州側にシフト
 - ②子育て世代、仕事は都市圏で子供は自然環境の恵まれた田舎で生活
 - ③農業趣味・農業挑戦者の取り込み (農業有識者のフォローアップが必要)

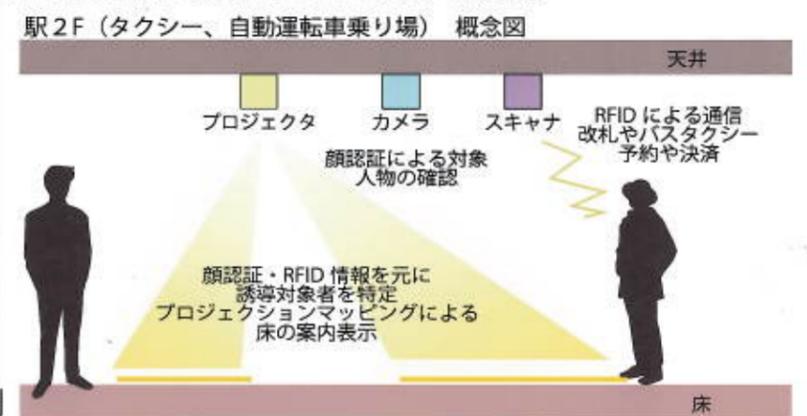


- (2) 週末信州人のライフスタイル
- ①休耕地を利用した耕作
 - ②5世帯ぐらいを1グループとして建物と土地(田畑付)を用意「邑(むら)」を形成
 - ③自家用車・トラックなどは共有(シェアリング)をして利用する農業人口の増加が期待できる。

6. ICT を利用した案内と誘導

駅2階部分は3m程度と天井が低く、採光が軌道下のため困難である。また柱が多い。その制約条件を有効に生かし以下のような機能を設ける。

- ①顔認証やスマートフォンとの短距離通信で利用者を特定し、利用者の行きたい場所へ誘導する。利用者前面に天井から行き先表示のプロジェクションマッピングを行う。利用者はマッピングの映像を元に誘導される。停車位置が不定の自動運転車やタクシーへの乗り換えがスムーズに行うことができる。
- ②柱には双方向対話型のデジタルサイネージを配置し、利用者はデジタルサイネージに話しかけることで、観光案内や乗車券等の決済を行うことができる。



駅2F(タクシー、自動運転車乗り場) 概念図

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書

1 リニア新幹線駅全体イメージ

(1) 駅名からのイメージ

駅名は所在地を連想する大切なもの。駅の命名には多方面からいろいろな提案がなされることが予想されますが、壮大さ・雄大さをイメージする駅名を望みます。

例えば『南信濃』『南信州』『伊那谷』など全国・日本全体の視点からの駅名がふさわしいと思います。

(2) リニアの見える駅

「リニアの走る姿は見られない、トンネル・防壁で何も見えない、リニア車両の走る・停る姿は見るができない」と言われています。しかし、私たちは「走る姿、ゆっくりと停車する姿、だんだんスピードを上げていくリニアの姿を見たい」のです。

そのために駅舎を駅ビルにするか、展望デッキをつくり、俯瞰的な視野、上から見られるようにしたい。(喬木の展望公園からは天竜川を越えるリニアの姿が見られる。)

(3) アルプスが見える駅とアルプスが映る駅

伊那谷(南・中央アルプスと天竜川がつくる谷、段丘)のイメージを大切に、両アルプスを仰ぎ、四季折々に日々刻々と変化する雄大な自然を味わえる駅・駅舎としたい。

そこで駅舎は『アルプスが映る駅』と、したい。

駅舎の壁面(南・東・北面)はミラーガラスにしてアルプスと山並みを映し出す。その雄大な姿を駅利用者・観光客は見る。また、駅舎周辺の木々が映り、自然と同化し、その中に入って行く自分を感じられる。

駅周辺にはケヤキ・桂・モミジ・ハナミズキ・ヤマボウシなどの樹木を植え、駅へと続く通りは並木通りとして彩られる。紅葉した樹木、雪を被る木々、朝焼け・夕焼けが映える山々。駅舎に映る緑の木々が風になびく、その中に自分の姿が溶け込む。漆黒の闇の中に構内の灯りがともる。懐かしくほっとする駅舎とその空間。これが最高のおもてなしです。

これらの提案は利便性＝開発は自然環境と対峙するものという従来の考えから、自然環境を活かし、その中で生活する、これからのあり方の提唱でもあります。

(4) 駅舎の壁面はリニアを水引でデザイン化したアクセントを。

2 駅周辺の構想

(1) 駅を取り囲む広場・ロータリーには、バスやタクシー・自動車が走る。そこから四方へ並木道が広がり、木々の樹間(ロータリーの外側)に会社・店舗・商店が円弧を描いて点在する。

(2) 駅周辺の色の統一 看板類は高さ(植樹した木以下)とし、黄緑から青までのグラデーションと茶からベージュ系の色で統一し、原色は使わない。色は大事なイメージ要素。

あくまでも雄大な自然の中に溶け込むリニア・リニア駅とその周辺風景としたい。

鳥瞰的には森・木立の中にある駅・駅舎とその周辺のイメージとなる。

(3)JR飯田線との交差 リニア駅とJR飯田線新駅をつなぐのは動く歩道。高齢者や障害のある方への配慮は勿論だが、滞在型の観光、登山観光の率も高い。荷物も大きくなることが予想されます。

両壁は伊那谷の映像での紹介(歴史・文化)と観光案内図、またガラス越しに南アルプスや恵那山等の西の山々も見える。

(4)リニアで伊那谷へ、リニアで伊那谷から 『心と体のリフレッシュ』

都会(東京・名古屋・大阪)では芸術・文化(イベントやコンサート、展覧会)があり、わずかな時間で世界的な催しの鑑賞・観賞が可能なこの地です。

また、リニア駅・駅周辺で半日ないし一日を過ごし、自然と人がつくる心と体をおもてなしと心地のよい空間にどっぷりひたりたい。長期滞在は天竜峡(屋神)を中心として。

(5)駅周辺公園・運動場でスポーツや心のリフレッシュ。木立の中に大きな広場。

◇山登り・ハイキング・トレッキング・クライミング(近くの丘、山々。伊那山脈、アルプスなど)

◇ランニング・ジョギング・ウォーキング、ペタンクなどのニュースポーツは駅前の木立の高架橋下の活用で? 堤防や里の道を利用したマラソンもできます。

◇自転車・サイクリングは堤防や山道、遠出も可能。 ツーリング・オブ・ジャパン大会も開催しています。

◇天竜川その他河川を利用してボート・カヌー・釣り・水遊び・水辺の散策を。

◇家族連れや仲間と丘や山で、溪流・川縁でバーベキューや飯田自慢の焼き肉も。

◇駅舎から南と東へ続く並木は国道を渡り、坂を下ると田んぼに出ます。そこは典型的な日本の田園風景です。現在農業・川下り体験・民泊の修学旅行を行っていて実績豊富です。

対岸の喬木村で計画している施設と連動して、川を楽しむエリアとなります。家族連れがゆっくりと遊べます。

◇学校の合宿・研修施設、会社の研修施設・研究所など、豊かな自然の中に施設が点在し、大きな敷地の大学の雰囲気です。その一角に現在ある温泉・スパ施設を活用して。

◇天竜川の支流は溪流釣りができる河川が幾つもあります。

◇飯田は宇宙産業を目指しています。

星空観察・美博の経験を生かしてプラネタリウムで宇宙や未来を夢見て下さい。

3 リニア(駅)を利用してこの地を広くPR

(1) リニアで対峙を愉しむ。

①ゆっくり・ゆったり・原点回帰・人と人・かかわり・人から人へ・自然との共存と調和

②大都会から、ど田舎へ〜ひと休み・ひと遊び・ひと風呂・ひと眺め・ひと味わい・ひと体験〜

③5〜7世紀には古代東山道がこの地を通り、東と西の境目でした。今この地は交流点です。

④超高速・リニアから、鈍行・JR飯田線でゆったり旅を。谷と秘境駅を訪ねましょう。

(2)リニアで四季を感じる。

春:桜めぐり・祭り(獅子舞) 残雪残るアルプスを春の景色と眺める。「伊那谷の春」

夏:花火・溪流遊び・キャンプ・バーベキュー、山登り。夏祭りは毎週どこかで。

秋:紅葉と果物(りんご・梨・柿)を味わう。星を見る。

冬:温泉と雪あそび「冬は僕の見方、冬は僕の餌食だ」(高村光太郎)

(3)リニア駅舎で文化と食を味わう。

① 民俗芸能・伝統芸能の紹介。遠山谷の霜月祭りは『千と千尋』のモデル。(待合室・ホール)のスクリーン大型テレビ画面に映像を流す)

② 飯田は天下の名水とお茶の最北端。銘菓・和菓子で一服を。

(4)地物・特産品を購入、賞味する。

地形的にも気候的にも変化があり、豊富な特産品があります。ジビエも得意です。野菜・果物・花は段丘と日照時間をいかしています。東と西、寒と暖の境目がここ伊那谷です。水引は特にお正月の飾り付けに。漬け物は全国的です。

(5)リニア駅・各市町村との連携(構内に大型ビジョン・パネルで紹介)

北:伊那(高遠)・駒ヶ根・木曾 [高原観光 山岳都市 工芸品 桜]

中川・飯島 [工芸・芸術家村 古民家再生 和洋菓子]

松川・高森 [野菜・果物・ワイン 果樹の収穫 眺めの良い風景多し]

東:豊丘・喬木・泰阜 [農業(果物・田植え)体験 溪流釣り 伊那谷ポイントビューあり]

西:阿智・平谷・根羽 [温泉リゾート 溪流 ・星・水・雪・木]

南:下條・阿南・天竜・売木 [秘境 民俗・伝統芸能 お祭り ジビエ ふるさと]

旧飯田:昭和レトロの町並み [静かで落ち着いた町、ゆっくり過ごしたい町 福姫様
和菓子と焼肉の町～飯田美しき町～岸田国土]

天竜峡:温泉を利用した特別老人養護施設、高齢者向けの各種施設、リゾートマンション・ウイークリーマンションの計画もあります。地元産の郷土料理を味わおう。

(6)その他(構内で伊那谷文化の紹介を)

菱田 春草(『黒き猫』『落ち葉』) 原田 泰治(谷を望む伊賀良からのふるさと風景)

椋 鳩十(夕焼け・遠山…、岸田国土(飯田美しき町～))

待合室ホールには、春草の『落ち葉』原田泰治のふるさと作品で。

その他;『千と千尋』の世界 しらびそ(谷底から3000Mの山々を)・下栗の里、霜月祭り
お練り、周辺自治体の代表風景)陣馬形山等

(7)展望レストラン

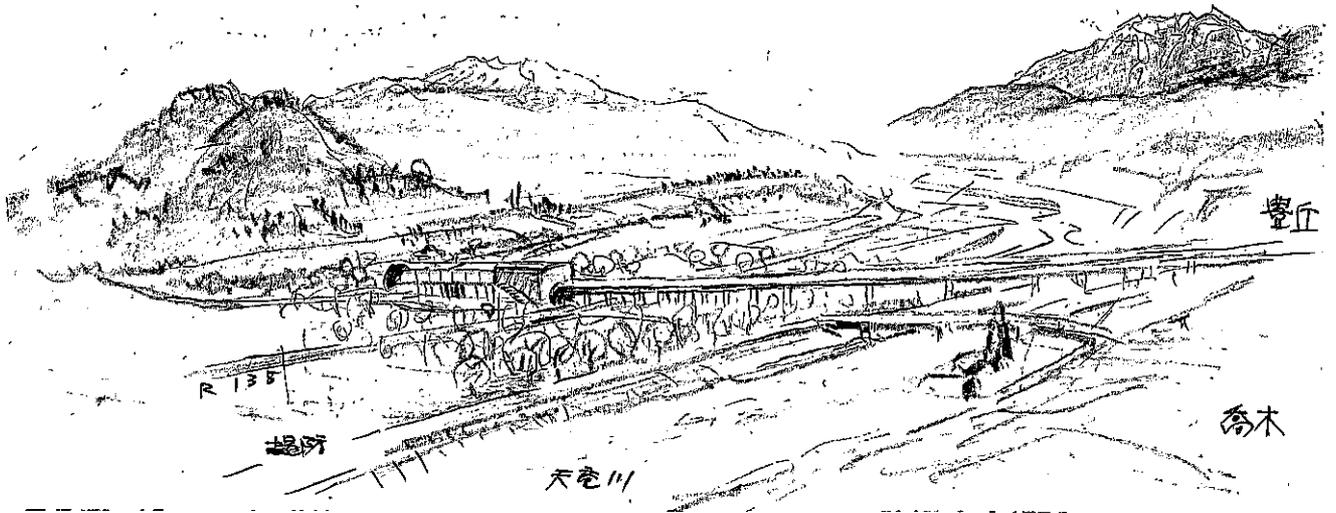
東京、大阪・名古屋からの利便性を考えると、この地はリゾート的な要素が求められます。都会の有名レストラン店が地元食材を使って食事の提供がなされるだろうし、招致もしたい。夜景を見ながら、リニアを見ながら、アルプスを見ながら、天竜川の流れを見ながら、満開の星空と共に味わう…。美味しい水(猿倉の水他)や和菓子、干し柿もあります。(甲州や塩尻のワイン、喜久水・仙醸の酒なども)

伊那谷の景色や味覚は人々の心にとんどこにか優しく和やかに働くことでしょう。

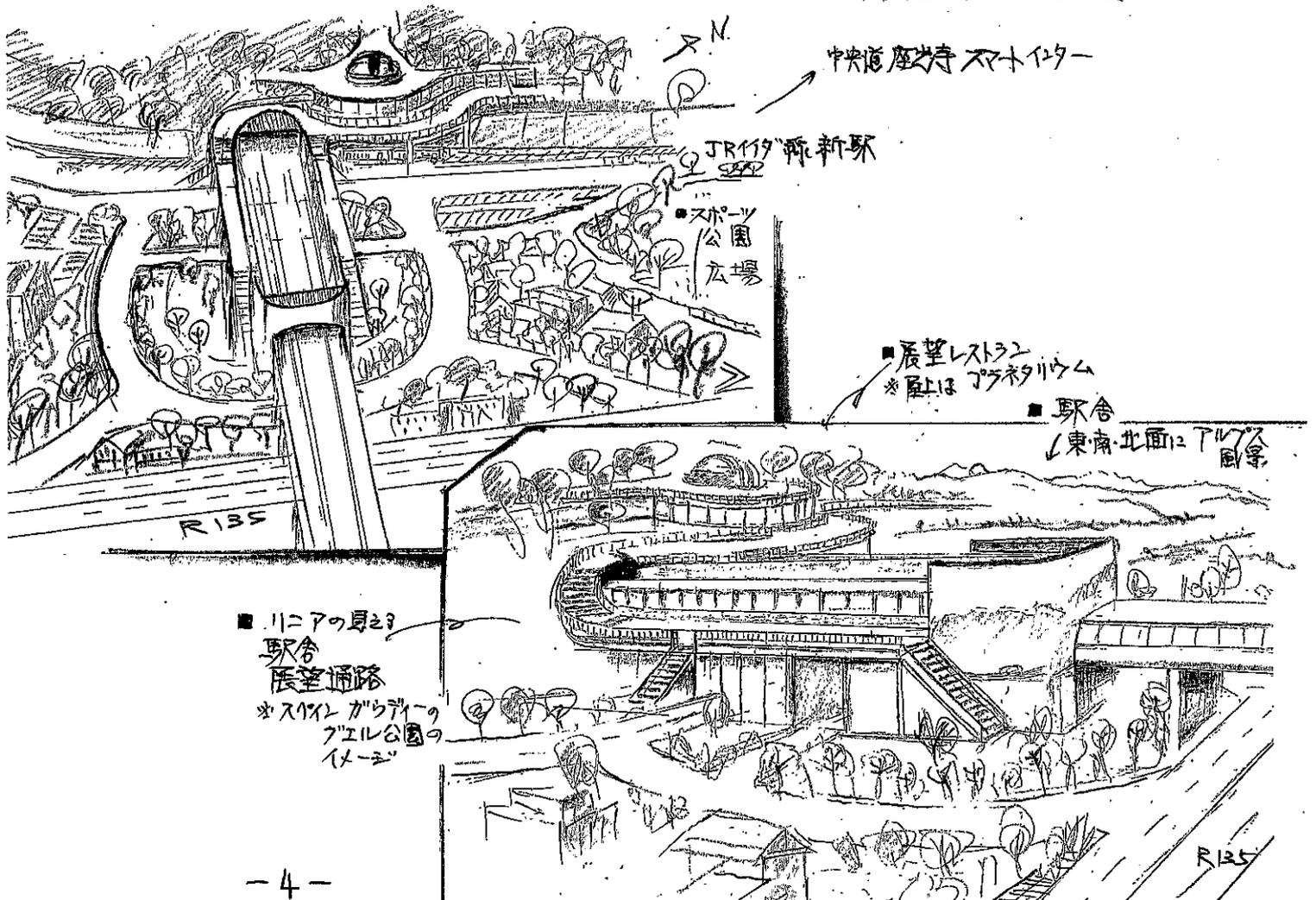
4 自然環境との調和(伊那谷のこれから)

駅周辺の市町村は、公共バス・公用車・タクシーなどは可能な限り『電気自動車』を使用したい。行政と企業の難しい関係もあろうがヨーロッパの観光・山岳都市では既に電気自動車は当然のように使用されている。また、飯田市は谷の風と日照時間で「風力発電・太陽光発電」で全国に知られている。

自然との共存、未来を図るリニアモーターカーがこの地を走るからには、この地ならではの電気活用のモデル駅とその周辺としたい。



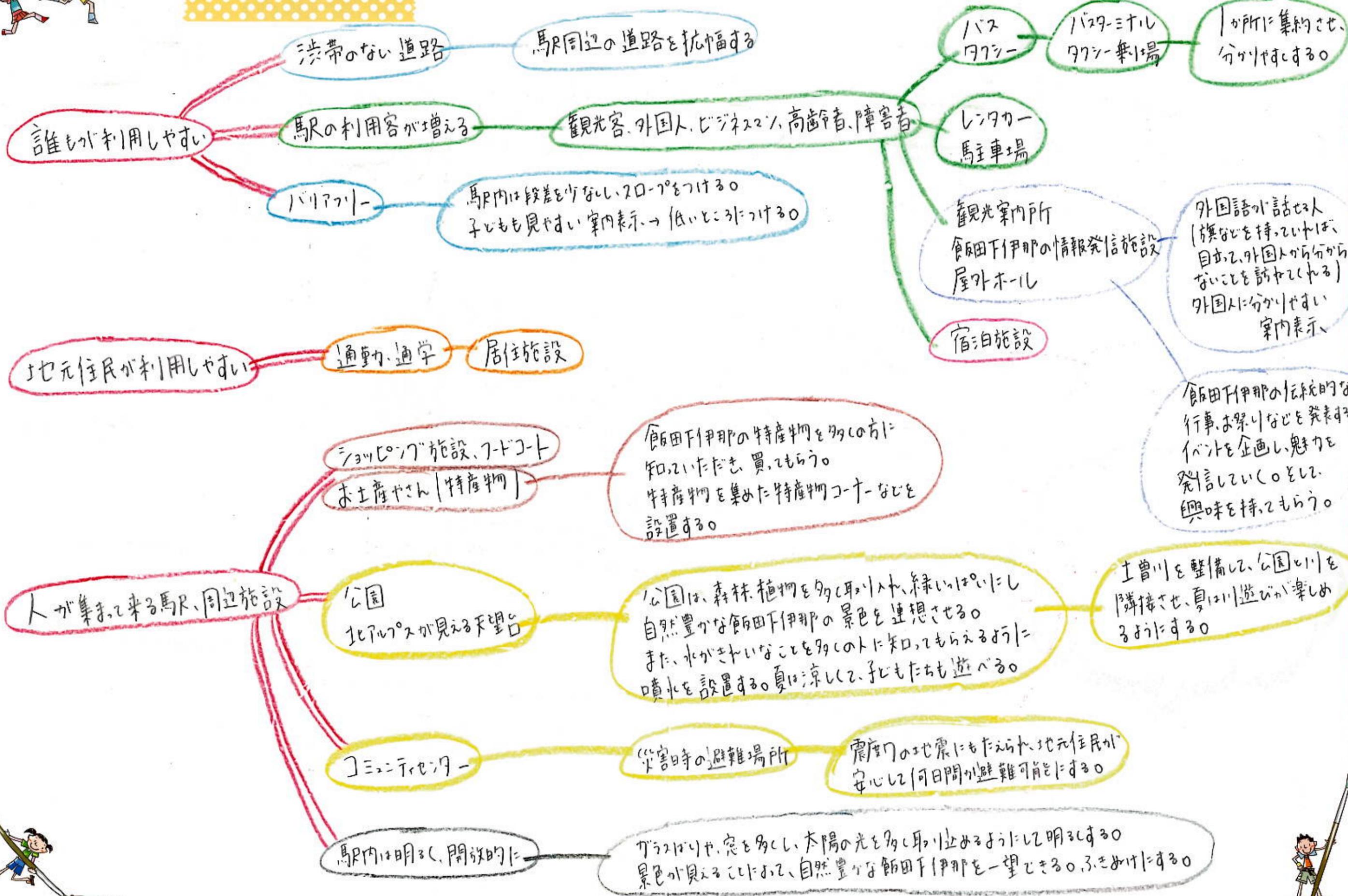
■アルプスがみえる駅(全体)





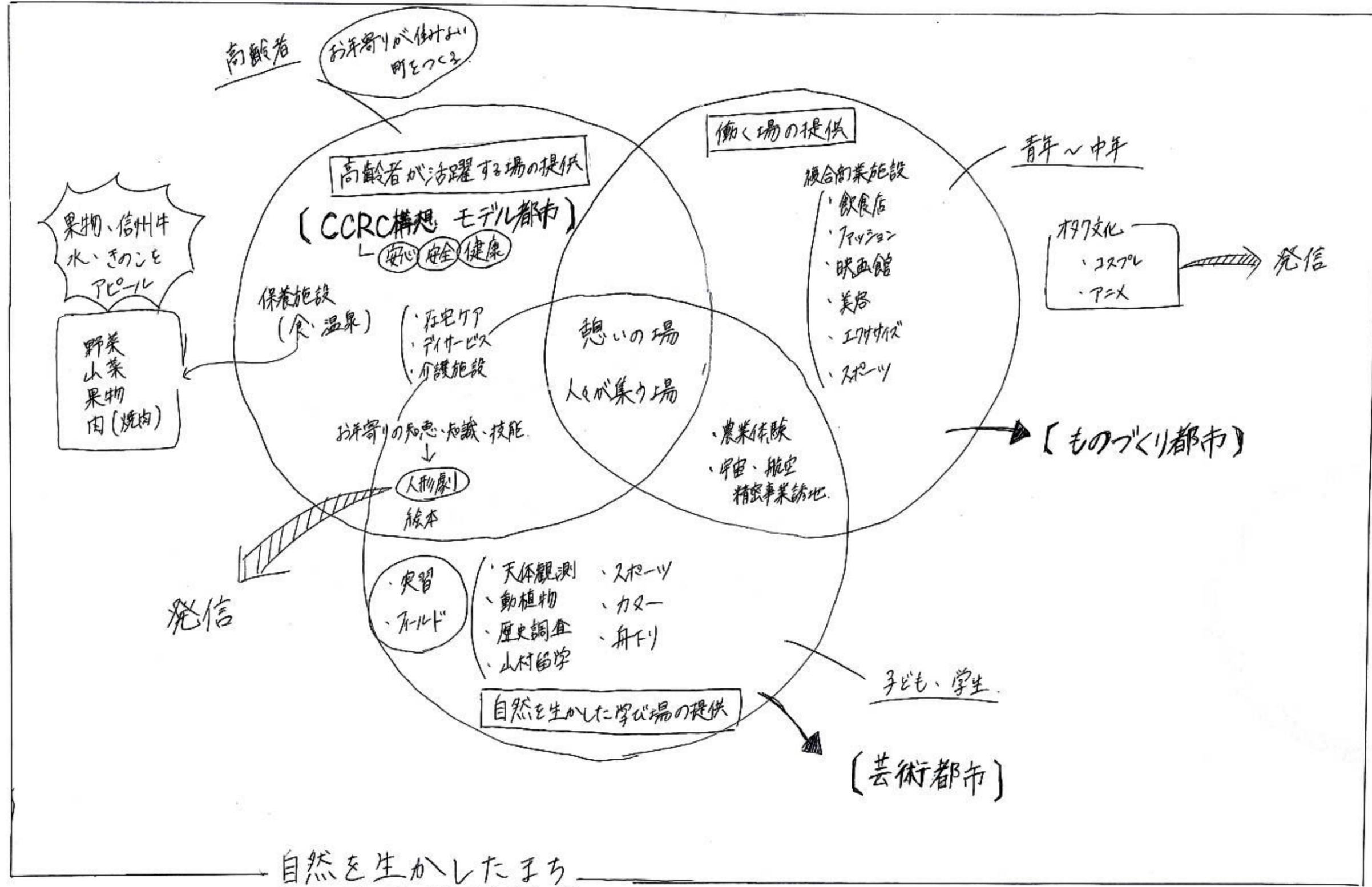
アイデアを文字・図・絵など何でもいいよ。
自由にかいてね。

C0961





アイデアを文字・図・絵など何でもいいよ。
自由にかいてね。



- <予算削減のための(新しいもの)>
- ・宿泊施設 (安宿・質素) + 温泉
 - ・ショッピングモール + イベントホール
 - ・四年制大学, 大学院, 研究施設
 - ・図書館
 - ・スポーツ施設
 - ・遺跡, 文化体験, 人形劇ホール
 - ・体験, 実習施設
 - ・農業体験, ホームステイ受け入れ施設
 - ・宇宙, 航空, 精密事業誘地に伴う 工地, 道路整備
 - ・オタク文化の盛り上げ (イベント企画)

自然を生かしたまち

- ・天竜川河川敷整備 (桜並木, フォーガーデン)
- (マレットゴルフコース, ウォーキングコースなど)





写真: http://blogs.yahoo.co.jp/ohhny_marc_bronnsey/13620732.html
<http://activity.goo.ne.jp/portal/PAK0213.html> より引用

飯田らしさ

飯田は四方を山に囲まれた、長い歴史と伝統を持つ街である。古くから信州における上方文化の玄関口として栄え、現在でも美しい自然と伝統文化が残る飯田は、「信州の小京都」とも呼ばれている。

近年では2013年に内閣府から「環境モデル都市」に選定されるなど環境問題への取り組みが盛んになっており、環境都市として自然環境にやさしいまちづくりが進められている。

そうしたなか、飯田市の交通機能を自転車とすることを提案する。

飯田の魅力である豊かな自然や昔ながらの街並みを全身で感じながら環境に負荷をかけることなく移動できる自転車はまさに飯田らしい交通手段といえる。



▲山に囲まれた飯田市街では街中の様々な場所で南アルプスの雄大な自然が楽しめる。

▲飯田は人形浄瑠璃や獅子舞など伝統芸能が数多く残る。また、水引などの伝統工芸も盛んである。

飯田市は焼肉の人口一人当たりの焼肉店の数が1位のまちとして知られている。飯田市に来たら焼肉を食べようというほど市民の間で焼肉の文化が浸透している。その焼肉愛は外食のみならず一般家庭にも根付いており、ほとんど一家一台のコンロと鉄板を備えているという説もある。まちには観光客も気軽に入れるような焼肉店も多く、様々な焼肉店で食べ歩くことも飯田を観光する上での楽しみの一つである。

しかしながら、飯田に来て焼肉を食べて太って帰ったのでは必ずしもいい旅の思い出にはなるとは限らない。では、どうすれば太らずに飯田の町を観光できるだろうか。そこで、我々は飯田の観光における移動手段として自転車を提案する。様々な観光施設に立ち寄りながら、飯田の丘を時に登り、時に下り、カロリーを消費することで食べた分のカロリーを取り戻す。そしてまた、次の焼肉店へ・・・

▶時計にはカロリー表示機能が搭載されており、自転車に乗りながら消費カロリーを知ることができる。



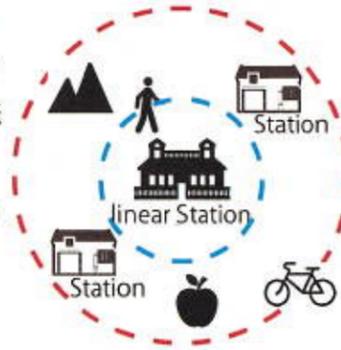
飯田市の利便性

飯田市は、東京と名古屋の間に位置しているため、観光客が訪れやすい。また都会に住む人々にとって、飯田の魅力豊かな自然をリニアが開通することによってより手近に感じることができる。



自転車導入の意義

リニア駅から飯田市の観光地や最寄りの駅には徒歩での移動は困難である。自転車を導入することで飯田市の魅力により多く触れることができる。

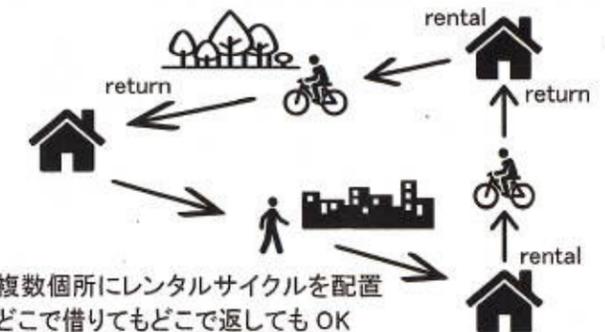


環境に配慮した交通手段 A0020

交通手段としてバスやタクシーの利用も考えられるが、自転車を利用することで観光に優しい町づくりをすることができる。また、自然を肌で感じることができるのも自転車のメリットである。

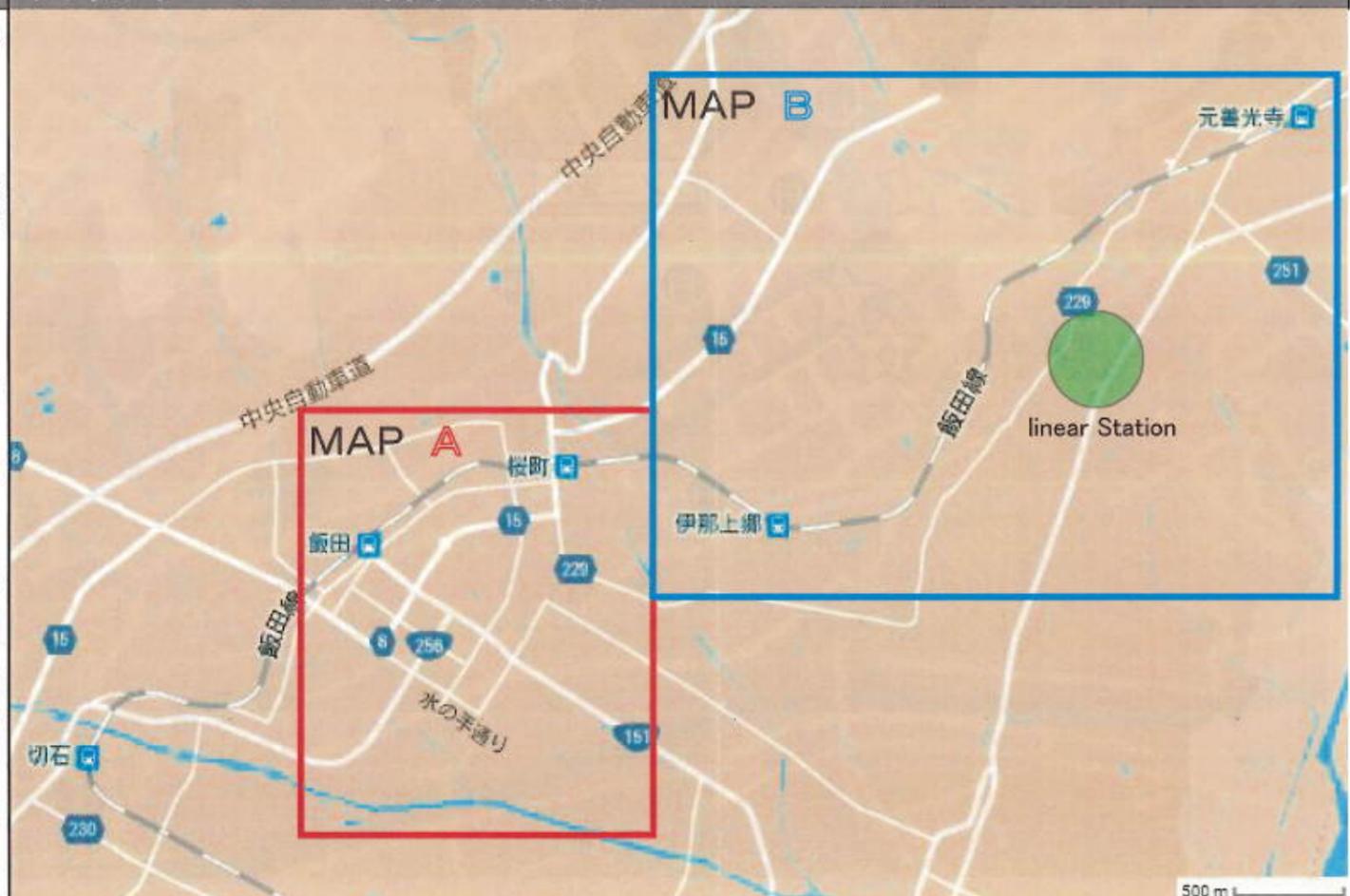


自転車観光の機能



- ・複数個所にレンタルサイクルを配置
- ・どこで借りてもどこで返してもOK
- ・自転車で飯田の自然を感じたり、街歩きすることも可能
- ・Mapを用いて自分だけのオリジナルのルートを作れる!

自転車マップ全体図 (例)



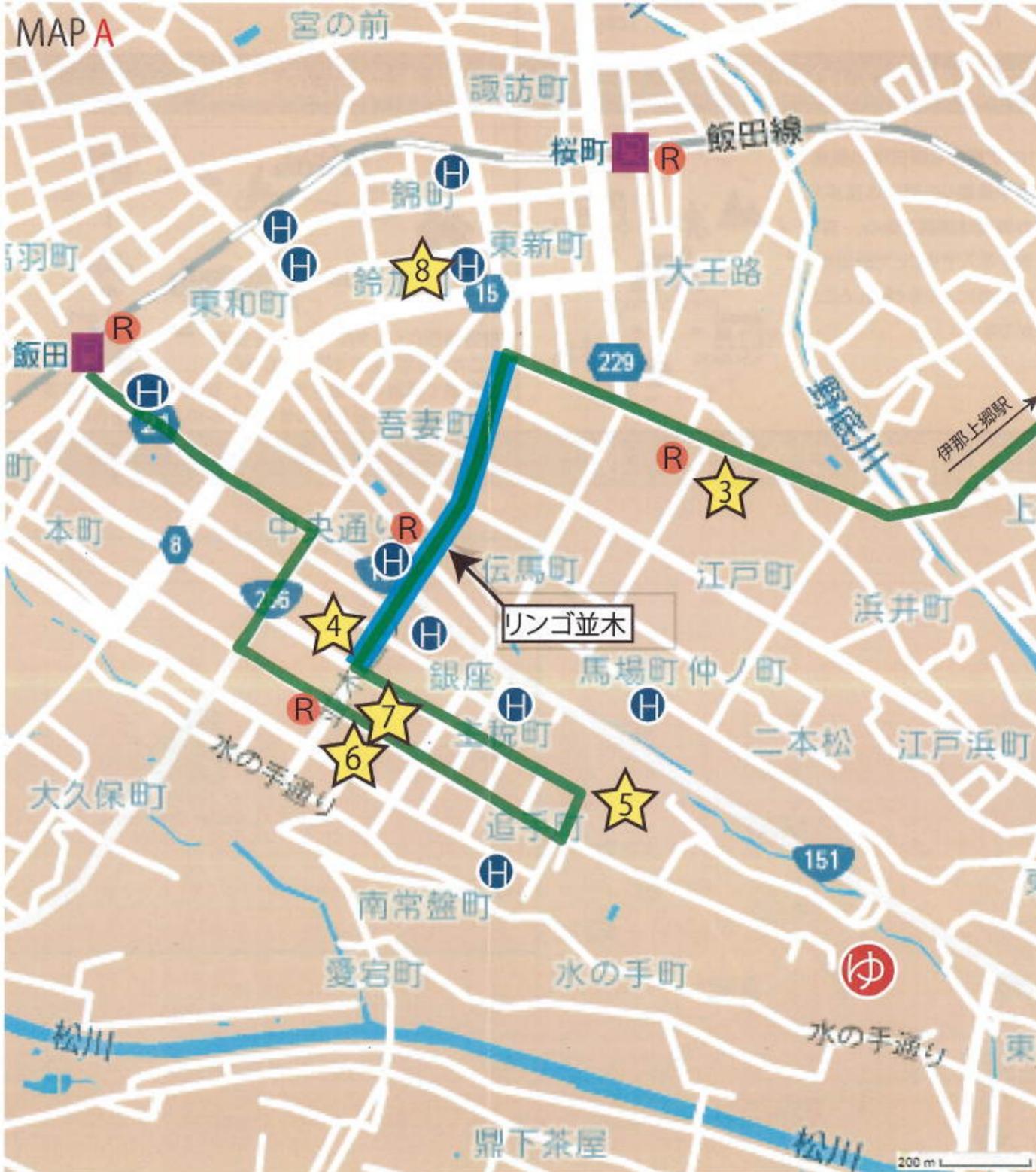
飯田レンタサイクルMAP

本提案で作成したルートは、

- ・リニア飯田駅～元善光寺駅方面のルート
 - ・リニア飯田駅～伊那上郷駅方面のルート
 - ・伊那上郷駅～飯田駅方面のルート
- の3つである。

このルートを通ると、目的地に向かいなが

ら自然に飯田の観光地を回ることができる。ただ、このルートはほんの一例にすぎず、飯田を訪れた人達には、それぞれの感性でオリジナルのルートを通り、その時々々の飯田の表情を体感してほしい。サイクリングをしながら、さらなる飯田の魅力を発見し、飯田をより身近に感じてもらうことがこの提案の目的である。



- 凡例
-  ビューポイント
 -  鉄道駅
 -  観光スポット
 -  温泉
 -  宿泊施設
 -  レンタサイクル



写真：飯田市 HP より引用

① 駅のホームと出た後すぐには
場所ごとに分け季節ごとの
季節感のわかるようにする。

② 商業施設を作る。

長野県の特徴を生かして店や
全国にこんな店かごとと呼びこむ。

③ 明るく雰囲気と根づける。

駅員や係員かごとを常に巡回させ
ゴミを拾う、捨てさせかかち、ちあんを守る。

④ 災害に対応して造りを実現させ
目のつく戸所にどう行動してさ...のか、
わかりやすく表示する。

① 環境の保全にかと入れる。

人が集まるので、それ考えて
対策を取る。

② 外国人も増えると思うので
町の「なる所」に外国語で示して
看板などを設け、様々な
国の人に対応する。

③ 駅を降りたから、飯田の特色がわかる
よいか観光ツアーを作る。

④ 東京の方にはつくる事で、さか...
なかめのみ、お墓をつくる。

飯田市で最期を迎えられるようか、

せ...を整理。

⑤ かんがえ自作ツアー。



長野県駅及び交通広場整備に関するアイデアの検討状況

トランジットハブ・道路ネットワーク部会

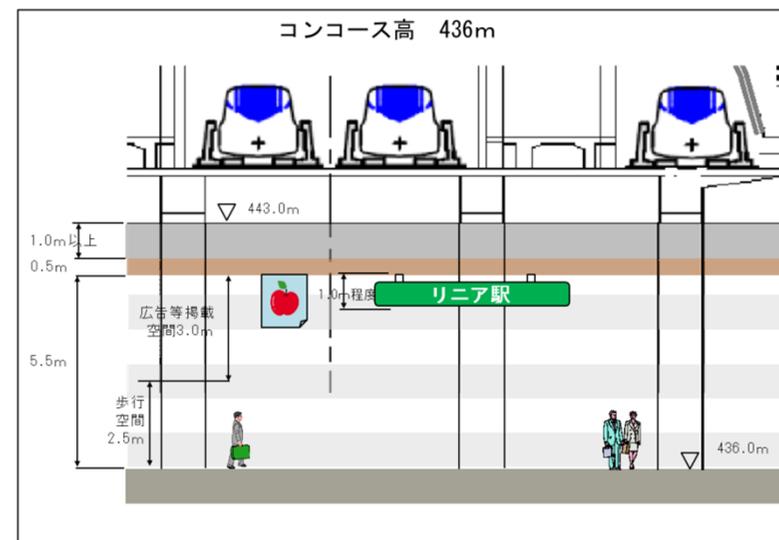
1 長野県駅及び交通広場に関する主なアイデア

- (1) 交通広場と駅を2階部分で接続する
- (2) 座光寺上郷道路からの進入路・交通広場の立体化
- (3) 交通広場の機能分担（公共交通（乗換交通）を1カ所に集中させる）
- (4) 交通広場の機能、形状（ラウンドアバウトの導入、標高差を活かした施設整備など）
- (5) 二次交通の整備方法（飯田線駅と接続、新たな交通手段の整備）
- (6) 駐車場の整備方法（天候バリアフリー 緑化した駐車場 防災機能の導入など）

2 アイデアに対する検討

(1) 交通広場と駅を2階部分で接続する検討

- コンコース高は、国道153号やリニアの計画高さ等の位置関係から標高436mである。
- コンコース高から天井までは、駅の構造上、5.5mしか確保できないことから（右図参照）、コンコースを2層構造にすることは適当でない。



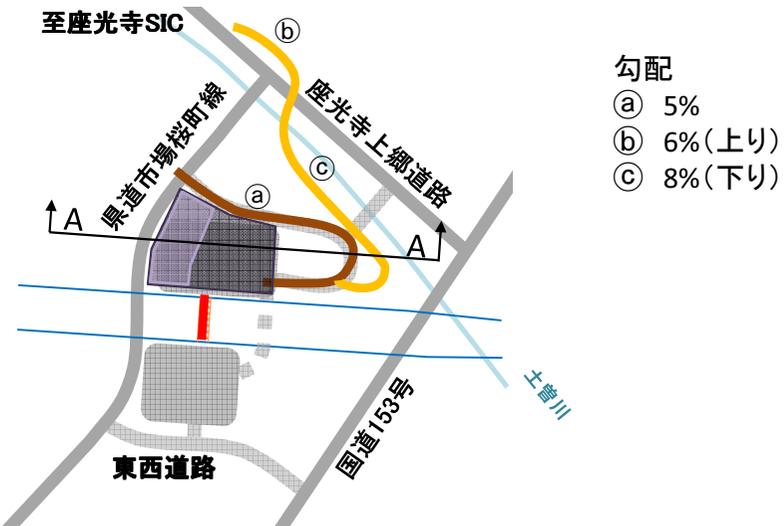
(2) 座光寺上郷道路からの進入路・交通広場の立体化に関する検討

A案	B案
<p>平面で整備</p>	<p>座光寺SIC方面から立体交差で進入</p>
<p>【平面図】</p> <p>勾配 ① 5%</p>	<p>【平面図】</p> <p>勾配 ① 5% ② 8% ③ 4%(上り) ④ 8%(下り)</p>
<p>【北側からの断面イメージ図】 (A-A断面)</p> <p>屋上 449m 立体 ② 443m 駐車場 ① 443m 交通広場 436m 北側広場の街区道路 437m</p> <p>コンコース</p> <p>—— 北側広場の街区道路</p>	<p>【北側からの断面イメージ図】 (A-A断面)</p> <p>屋上 449m 交通広場 444m 立体 ② 444m 駐車場 ① 436m 北側広場の街区道路 439m</p> <p>コンコース</p> <p>—— 座光寺SICからの立体進入路 —— 北側広場の街区道路</p>

C案

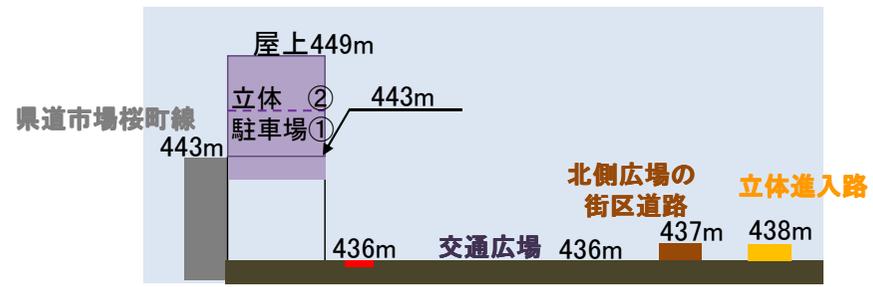
座光寺SIC方面から立体交差で進入

【平面図】



- 勾配
 (a) 5%
 (b) 6%(上り)
 (c) 8%(下り)

【北側からの断面イメージ図】
 (A-A断面)

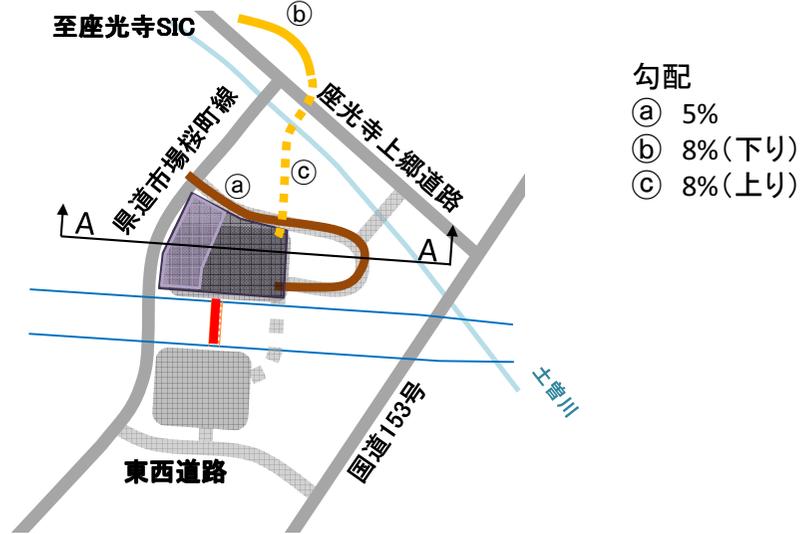


- 座光寺SICからの立体進入路
 — 北側広場の街区道路

D案

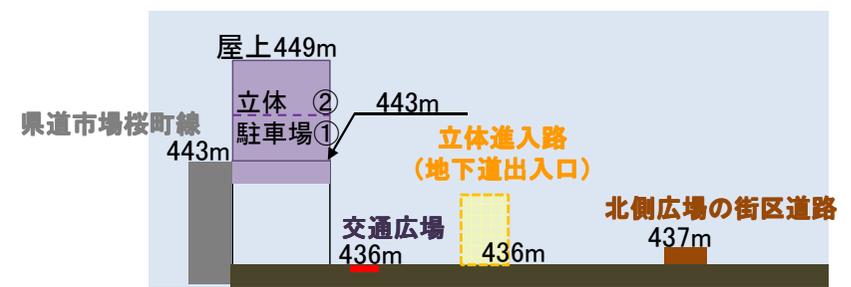
座光寺SIC方面から地下道で進入

【平面図】



- 勾配
 (a) 5%
 (b) 8%(下り)
 (c) 8%(上り)

【北側からの断面イメージ図】
 (A-A断面)



- 座光寺SICからの立体進入路
 — 北側広場の街区道路

		A案	B案	C案	D案
整備方針		平面で整備	座光寺SIC方面から 立体交差で進入	座光寺SIC方面から 立体交差で進入	座光寺SIC方面から 地下道で進入
交通広場	乗降場・ プール	南北ともに平面 1階部分	北側：立体 3階部分 南側：平面 1階部分	南北ともに平面 1階部分	南北ともに平面 1階部分
	駐車可能 台数	750台	750台	750台 (駐車台数を確保するには 何らかの工夫が必要)	750台
	立体交差 道路の設 置に伴う 影響	—	立体交差道路の設置に伴い、 平面駐車場スペースの一部が 潰れる。	立体交差道路の設置に伴い、 平面駐車場スペースが最も潰 れるプランである。	地下道での整備であり、平面 駐車場スペースへの影響は、 ほとんどない。
課題への 対応	駅利用者の 動線	コンコースと乗降場が同じ高 さ。移動距離は短い	コンコース1階、乗降場3階 となり、動線に高低差が生じ 移動距離が長くなる	コンコースと乗降場が同じ高 さ。移動距離は短い	コンコースと乗降場が同じ高 さ。移動距離は短い
	進入路等の 勾配	最大5%	最大8%	最大8%	最大8%
	座光寺SIC からのアクセス	交差点2カ所	交差点なし	交差点なし	交差点なし
	駅北側コン コース出口 の視界	交通広場	立体駐車場1階	交通広場	交通広場
事業費		一般的な整備費が必要	進入路の建設費が増額 交通広場立体化の経費が増額	進入路の建設費が増額	土曾川下を通過するため立体 交差に比べ工事費が増額
概算の増額 分(A案を基 準として)		—	約50億(交通広場を人工 地盤とした場合)	約10~15億	約15~20億
評価		座光寺SICからのアクセシビリ ティは劣るが、事業費は最も 安価	座光寺SICからのアクセシビリ ティは最も良いが、事業費が 高価(特に交通広場立体化) また駅利用者の動線が複雑	座光寺SICからのアクセシビリ ティは高く、駅利用者の動線 も短い	C案と比較して事業費が増加す るが、眺望の良い景観を確保 できる

※ 青字：有利な項目 赤字：不利な項目

(3) 交通広場の機能分担に関する検討

※ 青字：有利な項目 赤字：不利な項目

基本構想を踏まえ南北に機能を配置した案	アイデア募集を踏まえ北側へ交通機能を集約した案
	<ul style="list-style-type: none"> ● 南北出口から乗降場までの移動距離が短い ● バスバースが方面別に整理できる ● バス乗降場が南北に分離されているため何らかの工夫が必要となる。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 乗換交通が1カ所にまとめられ、わかりやすい ● 乗降場までの距離が長くなる交通手段がある ● 交通が錯綜する ● 駐車台数を確保するには何らかの工夫が必要となる

方面別に南北での機能分担が効率的であると考えられる。

(4) 交通広場の機能形状（ラウンドアバウトの導入、標高差を活かした施設整備など）

周辺道路とのアクセス、交通広場等の検討によりラウンドアバウトの導入を今後検討する。

(5) 二次交通の整備方法（飯田線駅との接続、新たな交通手段の整備）

駅周辺地域の交通体系の現状と課題整理を進め、整備方法について今後検討する。

(6) 駐車場の整備方法（天候バリアフリー 緑化した駐車場 防災機能の導入など）

整備主体、運営主体等を今後検討する。

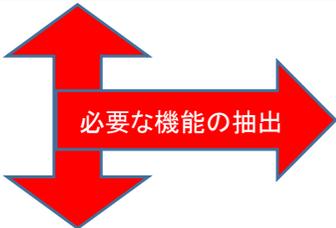
魅力発信部会の現在までの検討の経過と今後の進め方について

【現在まで】

【今 後】

魅力発信部会での 現在までの議論

- (第1回)「基本構想」での位置づけの確認
- (第2回) 既存新幹線駅の事例を概観
- (第3回) 魅力発信に求められる機能の検討
- (第4回) **魅力とは**



アイデア募集

- リニア駅周辺にあったらいいもの
- 「伊那谷らしさ」を表現するアイデア
- 来訪者へのおもてなしのアイデア
- 使いやすい駅にするためのアイデア
- リニア駅にありたったときのイメージ
- 環境に配慮したまちづくりのアイデア
- 駅利用者を増やすためのアイデア
- 楽しいと感じる活動、イベント

etc

視点① 一般的な区分

観光案内機能

情報発信機能

体験・交流・
イベント機能

物販機能

飲食機能

その他機能

視点② 基本構想の位置づけ

今後規模検討を検討する機能・施設

- 魅力発信施設
- 駅利用者利便施設

駅に近接して導入するか 検討を要する機能・施設

- 交流施設
- 公園

駅及び周辺環境整備

- 駅空間
- 観光資源の強化
- 信州・伊那谷ブランドの発信

部会意見・アイデアを踏まえた 必要な機能の施設別整理

魅力発信施設

- ○○○○○○○○機能
- △△△△△△△機能
- ◇◇◇◇◇◇◇機能
- ×××××××機能

駅利用者利便施設

- ○○○○○○○○機能
- △△△△△△△機能
- ◇◇◇◇◇◇◇機能

交流施設・公園

- ○○○○○○○○機能
- △△△△△△△機能

その他(環境整備)

- ○○○○○○○○機能
- △△△△△△△機能
- ◇◇◇◇◇◇◇機能
- ×××××××機能

アイデア募集の意見集約

視点	意見（機能別整理）
内観 機光 能案	<ul style="list-style-type: none"> ・広い観光案内所（休憩所付き） ・WiFi ・コンシェルジュ配置（外国人向け：英・中・韓）、育成 ・ラウンドアバウトの交通広場の周りに案内所（外国人にも対応）
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・この地を広くPR（四季、文化と食、地物・特産品、各市町村と連携PR、伊那谷文化の紹介） ・伝統文化紹介コーナー ・「結い・むすぶ」をテーマのPR、ピンバッチ ・「人形劇のまち」をアピール ・吊るし雛の展示・販売 ・下伊那地区の祭りや災害の展示 ・オタク文化（コスプレ、アニメ） ・リンゴ、リンドウ、ライチョウなどの長野県や飯田市、伊那谷を象徴する何かを飾る ・温泉 ・風鈴やすだれなどの田舎っぽいものを置く ・赤と緑の水引きを使ってリンゴを模って駅中にぶらさげる ・I・Uターン相談員 ・求人情報や土地情報、イベント告知、相談者の希望に応じる ・コンコース、通路、広場に長野県全域の地図、祭りマップ、飯田下伊那の詳細地図、伝統工芸品、特産物のアート化した物の展示
発信	<ul style="list-style-type: none"> ・シアター（各県各所の紹介映像を放映） ・SNSを利用した情報発信 ・多言語情報版 ・観光案内マップを色々な国のバージョンでつくる ・飯田の有名な所を駅構内でアナウンスする ・新しいリンゴ並木による情報発信 ・飯田の方言を使った「いらっしやい」の看板 ・外国人向けのwelcomの文字 ・飯田の名所（お店紹介）マップ ・パンフレットの設置 ・リニアの良さを取り上げたチラシ ・道路にリニアのゆるキャラの絵を書く、駅の中は上郷の人からのメッセージ ・ポスターを書く、貼る（長野や飯田で行う祭りなど） ・駅員全員が飯田弁 ・人が通ると音が流れるスピーカー ・横断幕 ・伊那谷を紹介する旗 ・飯田近くをリニアが通る時には、飯田の有名な所、良い所を社内アナウンスする、リニアの中だけでなく、駅でも行う
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前モニュメント ・大きなオブジェ ・水引きのおもてなし空間 ・リンゴのオブジェ ・ロータリーの中央部に人形劇のまちにちなんだ「からくり時計」を置く ・ラウンドアバウトの中央部に花を植える ・駅前の広場に巨大な今田人形を設置、飯田のシンボルにする ・駅舎を「飯田らしさ：水引き細工・結い」をあしらった表現 ・駅の壁面に伊那谷の写真を貼る ・駅舎の壁面は、リニアを水引きでデザイン化 ・一年中を通して名勝の写真を展示 ・駅の全体イメージ：アルプス、天竜川 ・七夕かざり、クリスマスツリー、イルミネーション ・長野の自然を生かした植物 ・駅前環境：伊那谷らしさ（何もない・柿並木） ・飯田らしさ（環境モデル都市、自転車、焼き肉） ・飯田の原風景を再現 ・伊那谷の伝統的な建築様式を再現、懐かしい集落を形成 ・心が落ち着く田舎
体験・交流・イベント機能	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントが開催できる広場（企画運営等を地元の商工会に任せる） ・地方の方々によるイベント広場、野草の段丘、展望の丘 ・集落の再現による交流・体験・イベント広場、イベント会場 ・室内遊技場（保育士常駐） ・舞台芸能の拠点となる施設 ・伝統工芸文化施設 ・文化の拠点の殿堂づくり ・音楽・演劇等鑑賞施設 ・県文化会館 ・音楽ホール ・地元の人々が利用できる場所（ハレ）の設置 ・子どもが遊べる大きな公園をつくる、大きなランドをつくる ・イベントやスポーツの全国大会を招致できる体育館及び周辺施設の建設 ・近くにゴルフ場やバッティングセンターをつくる ・バイクコース、マウンテンバイク・トライアル体験や大会ができるスペース ・リニア軌道の上を通れる透明の通路、停車しているリニアが見える展望室 ・ラウンドアバウトの中央部の広場でコンサートやイベントを開催 リニア〇〇周年記念イベントをつくる ・飯田の伝統（水引きなど）体験コーナー ・獅子舞等のイベント ・伝統的な行事、お祭りなどの発表イベント ・飯田で有名な物を作り教室 ・花を作ってお土産にできるコーナーをつくる ・阿島傘作りができる場所をつくる ・スタンプラリー企画 ・駅の何ん箇所かにスタンプ台を設置 ・駅周辺でのりんご狩り ・イチゴ狩り ・体験牧場 ・森林浴的なスペースの設置 ・ゆるキャラ、マスコットキャラクターをつくる ・隠れミッキーならぬ「隠れリンゴ」 ・プリントシール機ブース ・プリクラを置く ・ゴミ捨て場をつくる
物販機能	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅 ・道の駅的な地の物を売る ・特産品の販売（飯田下伊那のみならず長野県の特産品） ・浅草にある「まるごとニッポン」の長野県版 ・土産物屋 ・産地直売所 ・篤農マルシェの開催 ・伊那谷市場（マルシェ） ・特産物を守る屋台通り ・水引き工芸体験スペース付店舗 ・老舗和菓子店のイートイン付テナント ・大型和洋菓子店 ・お弁当屋 ・パン屋 ・人気のある店をつくる ・リニアに関するグッズの販売、ラジコンで動くリニア、リニアのキーホルダー、舟下りグッズ ・リニア限定の土産を作る ・長野県の特産を生かした店、全国に展開している店を入れた商業施設をつくる ・複合商業施設 ・スーパーマーケット ・セントレアみたいなショッピングモール ・デパート、東急ハンズorロフト、銀行（都銀）、花屋 ・オフィス、商店街 ・マッサージ店
飲食店機能	<ul style="list-style-type: none"> ・県内食材フードコート ・郷土料理フードコート ・地元野菜等の軽食スタンド ・ご当地グルメの店 ・展望レストラン ・レストラン ・ジビエ料理 ・五平餅の販売 ・駅弁をつくる ・子ども食堂 ・そば、りんご、市田柿のワンコイン定食等で特産品PR ・オープンカフェ、カフェ ・リニアを見降ろす時計のないカフェ ・スタバ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設（噴水・ベンチ・マッサージチェア、場所を多くする） ・休憩待合スペース ・きれいなベンチを置く ・簡易宿泊施設及びホテル ・スーパー銭湯ホテル ・カプセルホテル ・ホテル・結婚式場の建設・誘致 ・足湯 ・温泉施設 ・アルプスが眺められる温泉 ・県産材使用による牧歌的な昭和の「駅舎のイメージ」、太陽光発電による水素発生装置、自然エネルギーの使用 ・リンゴをイメージして駅の色を緑、赤にする、駅をお城みたいにする ・外観は、長野県や飯田下伊那をモチーフにしたラッピング ・ヘリポート、菱田春草の森、高架下駐車場、シンボルツリー、緑地駐車場、親水広場、マンション、オフィスエリア等の計画 ・駅舎を中心に南北に2階建て程度の複合施設の建物を設けてコンコースで駅に直結 ・駅ビルの建設（4階建）1F土産・待合、2Fリニア・モノレール駅、3F飲食店街、4F事務所 ・駅地下を作っているいろいろな店か体験する所をつくる ・駅中に本や軽食、郷土料理 ・駅舎の1Fか2Fにたくさんの店がほしい、できれば仲見世の雰囲気 ・大都会となり、日本一の文化ホール、テレビ局、イオンモールやユニーなどの大型店舗、駅前にはショップと商店街 ・伊那谷パノラマ展望台 ・展望台 ・リニア駅の展望デッキ ・リニア軌道の上を通れる透明の通路、停車しているリニアが見える展望室 ・守るべき伊那谷（竜西、竜東地域）らしさ、守るべき町（中心拠点）らしさと広域交通拠点、パノラマ展望台を整備 ・広場には木を使った遊具をつくる ・ドッグラン ・直径100mぐらいの大観覧車 ・小型観覧車 ・伊那谷みどりの広場の設置 ・テーマパークのようなドーム ・交番 ・非常時の対応スペース ・図書館 ・コミュニティセンター ・駅に花壇を設置 ・噴水の設置、土曾川の整備 ・ゴミ箱をたくさん置く（楽しいゴミ箱、伊那谷風景付きゴミ箱） ・林で囲む、緑地デザイン ・広葉樹、多層林によるポケットパーク ・植える木はりんごか桜にする ・長野県花や地元特産の花を植える、花で文字をつくる ・りんご並木をつくる ・ピオトープ空間の再生、小水力発電の活用、リバーサイドパーク ・景観の維持 ・コンコースを出たところはできるだけ広がりを感じられる空間 ・駅を出た所で季節感を演出する ・リニア駅から飯田下伊那の景色が見えるようにする ・駅前開発は「コンパクトにまとめる」「人や車両の動きが効率的な駅」とする ・駅としての機能と「癒し空間」への出入り口として位置づけた一体整備 ・自然を破壊しないようにしてほしい ・駅を派手にしすぎない、飯田の静かな所が好きなおもい
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・香りによるまちづくり ・医療、福祉、生活弱者、エコ環境に優しいメディカルシティを目指すのが良い ・元善光寺界隈の修景事業 ・市田柿の無料配布 ・おいしい水の配布 ・リンゴや干し柿、ブドウを来訪者へ振る舞う ・キーホルダーを配る ・温泉の割引チケットを配布 ・リンゴのマンホールだけでなく、市田柿のマンホールをつくる ・全国・日本全体の視点からの駅名がふさわしい ・アウトレットモールは基本的に反対 ・個人の発見を市が利用する ・ありのままの飯田を知ってもらう ・東京の長野のアンテナショップに飯田の特産物を置いてアピールする

第2回・第3回環境・景観部会の報告

1 ミッション（前提）

- ・ 移転を伴う地元の住民への細心の配慮。
- ・ 世界的な視点から、沿線都市としての責任を果たす。

2 第2回環境・景観部会の内容（要旨）

<日時：平成28年6月23日（木）10:00～ 会場：飯田市役所 C311～313号会議室>

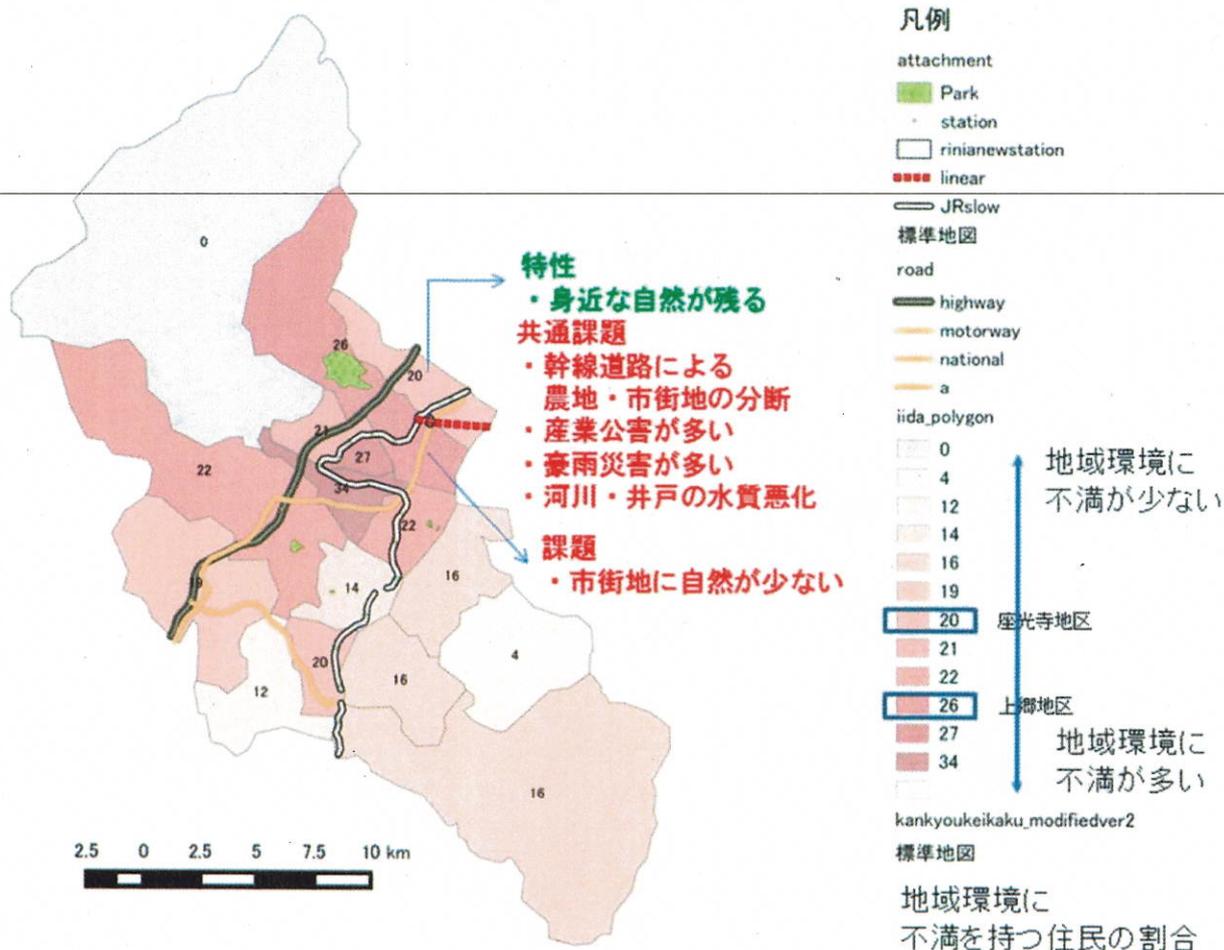
・ 議題 全体的なコンセプトと地域への展開について

～リニア駅のコンセプトとして取り上げる市民の要望・期待～

- アルプスの見える駅
- 自然に地域住民が集う・利用する駅
- 自然環境への開発影響の最小化
- 伊那谷の主要な目的地への交通ネットワーク拠点
- 利用者と地域住民との交流の接点・きっかけを提供する空間

3 第3回環境・景観部会の内容（要旨）

<日時：平成28年7月14日（木）15:00～ 会場：飯田市役所 C311～313号会議室>



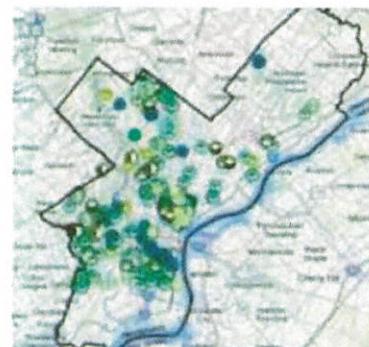
(1) 具体的な 6.5ha の敷地における土地利用と景観

- a. 合理的、スムーズな乗り換え、乗り継ぎのための動線計画
駐車場、乗降動線、公共交通（バス、タクシー、JR 在来線）
- b. 地域の交通渋滞、減少する地区内の緑地環境の代替え措置
- c. スローで、田園的な伊那谷の玄関スペース
地域住民と交わる自然広場、伊那谷の景観を望む展望台

(2) コンセプトに答えるための土地利用及び景観的な対応

- a. アルプスが見える駅
展望台、ペDESTリアンデッキ、段丘林を活用した景観
散策スペース

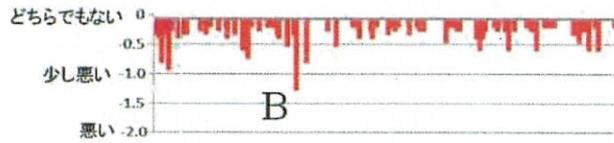
グリーンインフラ(緑のインフラ)とは、「緑」を都市のなかに上手に組み込み、その自然のプロセスを活かすことで課題を解決しようとする取組です。従来のインフラ(グレーインフラ)のように特定の目的のためだけに建設され、活用されることとは異なり、トリプルボトムラインである環境、経済、社会の各面の便益が得られるとされています。



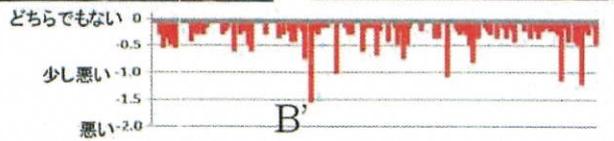
b. 上伊那の広域景観改善事業との連携
三風モデルによる信州型屋外広告、留意ポイントの共有

最低評価:パチンコ施設を通過する地点

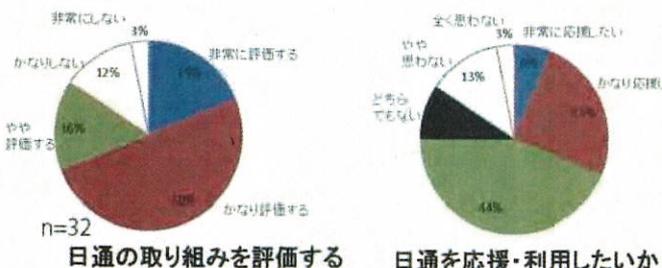
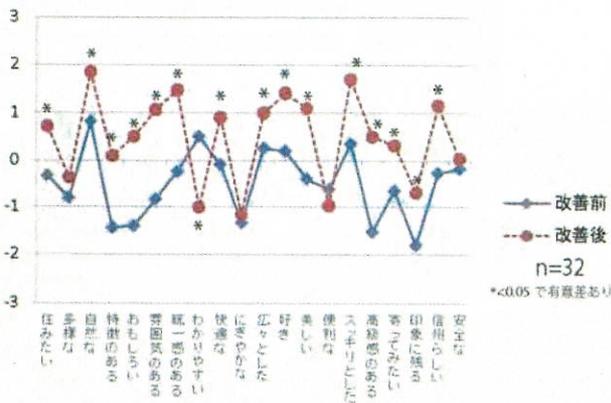
7分にBを通過する
南向きVTR -1.13点



15分にB'を通過する
北向きVTR -1.47点



設置イメージ



『交流人口拡大部会』の設置について(案)

1 設置の目的

リニア中央新幹線の整備効果を活かした交流人口の拡大に向け、この地域らしい「おもてなし(迎賓機能)」のあり方や、当地域の魅力を活かせる交流人口拡大の核となるテーマや方策の検討を行い、信州・伊那谷ブランドを強化し発信できる具体的なプロジェクトを創発することをめざす。

2 取組内容

① 当地域の魅力を活かす交流人口拡大の核となるテーマや方策の検討

キーワード：交流居住、インバウンド、ライフスタイル、新たなツーリズム、農の魅力

- ・実践者の思い、熱意、活動に関する情報交流
- ・当地域資源の差別化、魅力的なコンテンツ等の検討
- ・外部アドバイザーからの新たな刺激、気づき など

② 具体的なプロジェクトを創発

- ・思いを形にするプロトタイプの立案と実践
- ・実践を通じた新たなネットワークづくり など

3 部会構成

有識者 (部会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口拡大に向けて、社会経済情勢の変化を踏まえた新たな視点に関するアドバイスや、特徴的な事例等を紹介できる方 ・プロトタイプ of 立案から実践へのアドバイスできる方 ・多様なネットワークを有する方
実践者	<ul style="list-style-type: none"> ・『飯田・南信州・伊那谷』にこだわりを持ち、交流人口の拡大につながるキーワードに関する具体的な実践活動を行っている方
オブザーバー	行政 長野県（上伊那、下伊那） 広域連合（上伊那、南信州） 飯田市（リニア推進部、産業経済部、総合政策部）
事務局	飯田市（リニア推進部、産業経済部、総合政策部）

※検討の状況により体制を強化、拡充する。また、知見を有する外部アドバイザーを適宜、招聘する。

4 設置の時期 平成 28 年 8 月

5 想定する実践者

NPO 国際りんご・シードル振興会理事長 後藤 高一 氏

南信州ではおいしいりんごが栽培され、飯田りんご並木に代表されるように歴史的・精神的にも特別な存在。りんごを大切に想い、かつシードルという新たな文化の構築を目的として発足。活動を通じ、日本におけるりんご及びシードル文化の普及啓発、異業種間連携による地域経済の振興、国内外の生産者との親交を目指す。

(NPO 国際りんご・シードル振興会 HP より抜粋)

感環自然村代表 坂井 淳 氏

感環自然村は、「五感を使い人と人、人と自然の環を創る」「違うが良い、違うが楽しい」「Think outside the box—型にはまらない自由な発想をしよう」の三本柱をモットーに「国籍や言語の違い、障がいの有無に関係なく誰でも集える場所を創る」という想いのもと、2010年5月に設立された多文化共生子どもサポート団体。多文化と触れ合うことで心に壁を持たない大人に育てること、異年齢での活動の中で他者と支え合い協力することを学ぶ事、これらを通しての次世代育成と真の国際人育成を目的として活動している。

(感環自然村 HP より)

(株)週休いつか社長 新海 健太郎 氏

名古屋市生まれ。仕事で飯田に来て以来、自然豊かな地域に魅了され、平成25年に飯田で独立起業。広告デザイン業を軸に、スパイス販売、カフェ、アトリエ、月刊フリーペーパーの発行や、古民家の活用、小商いに取り組む若い起業家の発掘と支援、特技である自転車による外国人向けのサイクリングツアーの企画運営等、幅広く活躍。

肉のスズキヤ 鈴木 志保 氏

伊那市の出身。地元出版社に勤務し、取材で遠山郷を訪れ、その魅力にはまる。26歳から遠山郷で一人暮らしを始め、遠山郷の観光協会の職員として、情報発信や遠山郷の魅力を伝える企画に取り組む。現在、肉屋の女房として、南信州の独自の肉文化を、日本中の発信中。伊那にもネットワークがある。(肉のスズキヤ HP より抜粋)

(株)ポーラスタァ 代表取締役社長 高沖 清乃 氏

ママのための情報サイト『Ca-sun』編集長、マタニティーサイト、フォトアプリ『Baby365』プロデューサー。2008年に働く女性のための妊娠・出産情報サイト・書籍『ninps (ニンプス)』を発表。女性誌などで話題に。2児の母、2015年より長野県伊那市と東京都のデュアルライフをスタート。地元長野県伊那市の「ふるさとメッセンジャー」に就任。国内外30箇所以上を子連れで旅行し、AllAbout「子連れ旅行」ガイドに。

(株)ポーラスタァ HP より)

(有) フィラーレ代表取締役 中根 正佳 氏

昭和44年、静岡県浜松市生まれ飯田市鼎育ち。神奈川大学卒業後、東京で就職。25歳で飯田に戻る。31歳で独立して有限会社フィラーレを設立。39歳で中根園の代表取締役に就任。現在、飯田市りんご並木に6店舗を展開している。平成27年4月21日天龍峡にCOCORO FARM VILLAGEをオープン。6次産業化の取り組み、農業リゾートとして注目が集まる。(ココロファームビレッジ HP より)